
スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『ローゼンガーデン編』

竜斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『ローゼンガーデン編』

【Nコード】

N8541Y

【作者名】

竜斗

【あらすじ】

第3弾スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中がついに始まった……。舞台は『ローゼンガーデン』。この静かなる庭で逃走劇の幕を上げる！果たして、逃げ切る者は、誰だ！？

逃走者紹介（前書き）

まずは、逃走者紹介・・・。

逃走者紹介

新参戦の方々

プリキュアシリーズ(6)

北条響

明るく少しおっちょこちょいな性格だが、誰よりも負けず嫌い。

曲がったことが大嫌いで正義感も人一倍強い。ミッシヨンには積極的。足は速い。

美々野くるみ

可愛らしい外見とは裏腹に打算的かつしたたかな性格。

ココとナツツを心の底から尊敬しているため、王国やココ、ナツツへの不敬や冒涇を許さない強い信念を持つ。ミッシヨンには絶対に行かない。足は遅い。

九条ひかり

優しく謙虚でやや引っ込み思案。一見大人しそうだが芯は強く、口調も常に丁寧であるが、時折気品に満ちた口調になることもある。周囲の行動に対して苦笑する所が多い。ミッシヨンには積極的。足は結構遅い。

来海えりか

感情によって表情が非常に激しく変化するムードメーカー的存在。
元気一杯なお節焼きで、その行動力で相手を強引に引っ張ることが多い。

基本的に前向きで明るいマイペースな性格だが、落ち込むことも多い。

ミッションにはあまり行かない。足は結構遅い。

月影ゆり

聡明かつ物静かな性格。非常に大人びており、ミステリアスな雰囲気
気を

醸し出している。ももかの数少ない友達で、モデルの仕事で
授業を欠席しがちなももかのためにノートの写しを渡したり、
一緒に弁当を食べたりと、色々と気遣いを見せる。

ミッションには積極的。足は遅い。

山吹祈里

おっとりとした性格でのんびり屋だが、自分に自信が持てず、
少々引っ込み思案な所がある。そんな内向的な自分を変えようと、
ラブ達の結成したダンスユニットに参加することを決意した。
ミッションには積極的。足は遅い。

魔法少女リリカルなのはStrikerS(2)

クロノ・ハラオウン

クールで無口、かつ生真面目と人当たりのきつい性格だが、

エイミイの寝癖が気になって直してあげるなどお茶目な一面もある。正義感が非常に強く、たとえ理に適っていても自分の信念に反すれば突っぱねる強さ、熱血さを持つ。

ミッシェンには時々行く。足は結構速い。

シャリオ・フィニーノ

眼鏡をかけた少女。なのはたちと交流がある。フェイトをもって

「シャリーリーの辞書に人見知りの字はない」と言わしめるほどの社交性と人なつっこさを持った性格で、フェイトの補佐として次元世界中を飛び回ったこともあって多方面に顔が広い。

ミッシェンには積極的。足は遅い。

再参戦の方々

スマブラX(3)

マリオ

ラテン系らしく陽気で活発な雰囲気醸し出すようになっており、陽気、友好的、正義感が強い、身体能力が高い、有名人、オールラウンダーといったヒーローキャラクターとしての普遍的なイメージが少なからず出されている。ミッシェンにはあまり行かない。足は速い。

オリマー

ホコタテ星という惑星の運送会社「ホコタテ運送」に宇宙船のドライバーとして勤務する男性。小型貨物から宇宙資源までさまざまな物資の運搬を頼まれ、宇宙航海士としては確かな腕を持つ。

ミッションには時々行く。足は結構遅い。

レッド

マサラタウンに住む少年。

ゼニガメ、フシギソウ、リザードンが手持ち。前回で早く確保されてる為、今回の逃走中で汚名返上したいらしい。

ミッションには時々行く。足は結構遅い。

前回からの引継ぎ

ぷよぷよ20th(2)

アルル・ナジャ

怖いもの知らずで、単体でも冒険に出る事も多い。男勝りと思われがちだが、

実はそうでもなく、至って天真爛漫な女の子である。少々ワガママで周りを見ないことも多い無責任な所もあるが、憎めない。

ミッションには積極的。足はかなり速い。

シェゾ・ウィグイイ

闇の剣を携え古代魔導を操る魔導師の青年。

暗闇を誰よりも愛する「闇の魔導師」の称号を持つ。
他者から力を奪い、それを自らの物として己を高めている。
ミッシオンには時々行く。足は結構速い。

スマブラX(6)

トゥーンリンク

プロロ島出身の毒舌家の少年。性格は明るく活発で優しく、
勇気もあるが、少々おとぼけな一面もある。妹ア ril と祖母の
3人で平和に暮らしていたが、ある日ア ril が怪鳥ジークロックに
よって攫われたため、妹を助け出す旅に出る。
ミッシオンには時々行く。足はかなり速い。

カービィ

自由気ままでのんびり屋。
風の吹くまま気の向くままに行動する。天真爛漫で純粹無垢だが、
自分で決めたことは絶対に変えない部分がある。
ミッシオンにはあまり行かない。足は結構遅い。

ドンキーコング

多少短気で強引なところがあるが、それは単に幼稚な面があるだけで
本人は悪気はない。ドジで頼りないところもあるため、
よく克蘭キーコングからは説教されており、克蘭キーを怒らせ
て TNT バレル

(要は爆弾)を投げつけられるなど、初期からこのような扱いだっ

た。

ミッシヨンには時々行く。足は結構速い。

ピット

正義感が強くパルテナへの忠誠心も篤いが、年齢相応のやんちゃで自信家な性格となっている。また、パルテナへは忠実な一方で、彼女が時折見せるいい加減な面には着いて行けず、頭を抱えている様子も垣間見せる。ミッシヨンには積極的。足は速い。

Mr. ゲーム&ウオッチ

歴史としてはマリオよりも古い、任天堂の最古のゲームキャラクターの一人。

ゲーム&ウオッチの作品で主に操作キャラクターとして登場した。

ゲーム&ウオッチが電子ゲームであったため真っ黒なシルエットのような姿。

ミッシヨンには積極的。足は速い。

ヨッシー

平和を好む温厚な種族であり、マリオの良きパートナーとして活躍することが多い。ヨースター島、恐竜ランド、ヨッシーアイランド、

ジャンボル島、ドルピック島などに生息する。

ミッシヨンには積極的。足は速い。

魔法少女リリカルなのはStrikers(3)

シグナム

「ヴォルケンリッター」の将。生真面目で実直、騎士道精神を持つ武人。基本的にはタメ口だが家族として接するはやてや目上の者などに対しては常に敬語を崩さない。ミSSIONには積極的。足は結構速い。

ヴィータ

騎士たちの中では外見や精神も幼く、常に勝気で自由奔放に振舞うが、芯は強く根は優しい少女。ミSSIONには絶対に行かない。足は遅い。

シャマル

金髪のおっとりした優しい美人。ドジで少々頼りない面が目立ち、周囲の一言でむくれたり、拗ねたりするなどシグナムや自分より幼いはずのヴィータに比べ、顔立ちや性格などどこか幼い感じがある。

ミSSIONには時々行く。足は遅い。

逃走者紹介（後書き）

次回、始まりの前に・・・。

逃走劇の説明（前書き）

始まりの前に、説明・・・。

逃走劇の説明

舞台は『ローゼンガーデン』。

そう、ここは静かなる大きな庭。

更にこの庭には大きな王国が立っている・・・。

この狭いエリアで逃げ切る者はいるのか!?

更に、ゲーム時間90分間での逃走劇が上げられる。

この22人の内、誰が逃走成功出来るのか!?

賞金は108万。

果たして、賞金を手に入れる者は誰だ!?

また、更に、自首も出来る。

自首は、各エリアの電話ボックスで自首を報告すればそれまでの時点での賞金を獲得できる。

各エリアは

『ウォーターガーデン』、『ゴールドガーデン』、『スターガーデン』、

『ブルーガーデン』、『スカーレットガーデン』、『ストロベリー

ガーデン』、

『スノーガーデン』、『クリスタルガーデン』の8つのエリア。
逃走者達は、この8つのエリアで逃げ回る！！

果たして、誰が逃げ切る・・・！？

逃走劇の説明（後書き）

果たして、誰が逃げ切る・・・！？

オープニングゲーム(前書き)

ついに、始まる・・・!!

オープニングゲーム

ここは多くの『ドール』で賑わう深夜の大きな庭……。

そう、ここで22人の逃走劇の幕を上げる……！！

彼等の目の前には、ボックスに入っている4体のハンターが……

彼等はこのオープニングゲームに挑む……

その時、甲高い声が聞こえてきた……。

『これより、ゲームを始める。』

君達の目の前にいるハンター達は、ボックスの中に閉じ込められている。

1人ずつサイコロを振り、出た「サイコロの目」に応じてハンターボックスが前進する。

振る者とボックスの間は1mごとに区切られており、全員で、22マス以上前進させればクリア。

スタートエリアから解放され、1分の間にハンターから逃げられる。

ただし、サイコロの1面には「ハンターの目」

この目が出ると、その瞬間、ゲームがスタートする。

ハンターが解き放たれ、目の前の逃走者に襲い掛かる。』

全員

「いっせーのーで!!」

全員がくじを一斉に引いた・・・。

祈里

「い、1番!？」

アルル

「ボクは16番だ・・・」

シェゾ

「あつ、最後に近い・・・! 21番!」

響

「2番!？」

ヴィータ

「あたしは22番・・・! 最後だ! 絶対に回って来ねえぞ!」

レッド

「嘘だろ!?! 3番・・・!？」

サイコロを転がす順番はくじ引きで決められる。全ては運任せだ・・・。

1番目は、山吹祈里・・・。

プリキュアメンバー、最初にここに立つ・・・。

祈里

「うわあ、緊張するよう・・・」

祈里、緊張している・・・。

マリオ

「緊張するな・・・！大丈夫、転がすんだ！」

シグナム

「大丈夫だ・・・！！」

祈里

「そうでしたね・・・じゃあ、転がします！！」

祈里はサイコロを構える。

祈里

「それっ！！」 ポイツ

ガランガラン、ゴロゴロ・・・。

レッド

「いきなりハズレは絶対でない．．．!!」

シャリオ

「そうですね．．．いきなりは．．．!!」

マリオ

「いい数字出てくれ．．．!!」

クロノ

「緊張する．．．!!」

サイコロが、止まった．．．。

出た目は、『4』だ．．．。

祈里

「良かった．．．!! 良い数字です．．．!!」

山吹祈里 クリア

ドンキー

「いきなり4が出るとは．．．!!」

トゥーン

「あいつ、結構運がいい方だな．．．!!」

目の数字は4。ハンターボックス4マス前進．．．
クリアまで残り18マス．．．。

ウォッチ

「ッテ、結構近ヅキマシタネ・・・!!」

ピット

「うわあ、近づくだけでめっちゃ怖い・・・!!」

ハンターボックスに怯える、逃走者達・・・。

ヴィータ

「誰か出して捕まれ・・・!」

くるみ

「誰でもいいから出して・・・! そうしないとゲーム始まんない!」

この2人は、一刻も早く出して欲しい様だ・・・。

2番目は、北条響・・・。

響

「あたしの出番早いな・・・」

プリキュアメンバー、またここに立つ・・・。

レッド

「早く投げてくれ・・・! そうしないと・・・」

響

「勿論よレッド！今投げるわ！」

ヴィータ

「もう出して捕まっちゃえ！」

響

「何言ってるのよ・・・！あたしがここで出すわけじゃない！」

響はサイコロを構える。

響

「もう、兎に角投げるわよ！それっ！」

ポイツ

ガラランガラ、ゴロゴロ・・・。

くるみ

「ハンターの目の可能性が高いわね・・・！！！」

ドンキー

「緊張する・・・！！！」

ヨッシー

「もう、誰でもいいですから良い数字出して下さい・・・！！！」

サイコロが、止まった・・・。

出た目は、『3』だ・・・。

響

「やった〜!!」

北条響 クリア

ひかり

「良い数字がまた出ました・・・!!」

えりか

「これ、もしかしたらクリアの可能性が・・・!?!」

ゆり

「でも、まだ油断しては・・・」

シャリオ

「そうでしたよね・・・」

まだ、安心は出来ない・・・。

目の数字は3。ハンターボックス3マス前進・・・
クリアまで残り15マス・・・。

3番目は、レッド・・・。

ポケモンマスターの少年が、ここに立つ・・・。

マリオ

「頑張れよ・・・!! せめて良い数字出してくれ!」

レッド

「俺も、それを狙ってる所だ!」

ヴィータ

「もうお前でいいから、さっさと出せよ・・・!!」

レッド

「お前酷いな・・・」

くるみ

「さあ、早く投げて!」

レッド

「ああ、うるさいな・・・」

レッドは2人の発言をうるさがる。

オリマー

「緊張せずに・・・!!」

シャマル

「さあ、投げて・・・!!」

レッド

「絶対に出ないぞ・・・!!」

くるみ

「祈ってるし・・・」

レッドはサイコロを構える。

レッド

「おらあ！」 ポイツ

ガランガラン、ゴロゴロ・・・。

ドンキー

「良い数字は・・・出るか？」

シグナム

「あたし達だって緊張する・・・！！」

ウォッチ

「早く止マリマセンカナ・・・！！？」

サイコロが、止まった・・・。

出た目は、『6』だ・・・。

レッド

「凄い良い数字が出たぜ・・・！！」

レッド クリア

ヴィータ

「いい加減誰かハズレ引けよ！」

くるみ

「そうよ！早く出して欲しい・・・！！」

レッド

「お前等・・・！！」

オリマー

「まあまあ、抑えて下さい・・・！！」

シャリオ

「怒らずに・・・！！」

2人はレッドを抑える。

レッド

「まあ、そうだよな・・・怒っても意味が無いし・・・」

レッドは怒りを抑えた・・・。

目の数字は6。ハンターボックス6マス前進・・・
クリアまで残り9マス・・・。

4番目は、オリマー・・・。

オリマー

「うわあ、この前には立ちたくありません・・・!!」

ベテラン宇宙飛行士が、ここに立つ・・・。

くるみ

「もういいわ! あんたで出して捕まっちゃいなさい!!」

ヴィータ

「そうだよ・・・!! 早く出せ!!」

オリマー

「貴方達、そろって酷いですね・・・!!」

兎に角、投げますよ!!」

シャリオ

「オリマーさんの言う通りですよ・・・!!」

オリマーはサイコロを構える。

オリマー

「ほいっ!」 ポイツ

ガランガラン、ゴロゴロ・・・。

クロノ

「ハンターの目は絶対に出るな・・・!!」

マリオ

「頼む！良い数字が出てくれ．．．！！」

ゆり

「こうなったら祈るしか無いわね．．．！！」

サイコロが、止まった．．．。

出た目は、『2』だ．．．。

オリマー

「数字は低かったけどクリア出来ました．．．！！」

オリマー クリア

マリオ

「2だけ出なくて良かった．．．！！」

くるみ

「何よ．．．全然進んでないじゃない」

オリマー

「運任せ何だからしょうがないじゃないですか．．．！！」

オリマーは怒り気味．．．。

目の数字は2。ハンターボックス2マス前進．．．
クリアまで残り7マス．．．。

カービィ

「うわあ、凄い近づいた・・・!!」

クロノ

「これでハンター放出したら恐ろしい事になるな・・・!!」

果たして、このオープニングゲームを、クリア出来るのか・・・!

オープニングゲーム（後書き）

果たして、このオープニングゲームを、クリア出来るのか・・・！
？

続き&ゲームスタート（前書き）

オープニングゲームは、まだ、終わらない・・・。

続き&ゲームスタート

5番目は、シグナム・・・。

シグナム

「来たな・・・!!」

ヴォルケンリッターの将、ここに立つ・・・。

くるみ

「あんたでいいから、早く出しなさい!!」

ヴィータ

「出さねえと始まんねえしさ・・・!!」

シグナム

「お前等・・・」

シグナムは渋々と前に立つ・・・。

マリオ

「良い数字取ってくれよ!」

シグナム

「ああ・・・!!」

シグナムはサイコロを構える。

シグナム

「ほいつ！」 ポイツ

ガラランガラ、ゴロゴロ・・・。

えりか

「多分出てくる・・・！！いや、そうでもない・・・？」

ドンキー

「わかんねえよ、そんな事・・・！！！」

シャマル

「マジで緊張する・・・！！！」

トゥーン

「早くサイコロ止まれ・・・！！！」

サイコロが、止まった・・・。

出た目は、『3』だ・・・。

シグナム

「ギリギリだ・・・！！！」

シグナム クリア

ウォッチ

「シグナムサン、ヤリマスネ」

シグナム

「出た目が3だからな・・・」

ヨッシー

「次4出たらクリアになりますよ・・・!!」

えりか

「クリアまで後4マス・・・!!」

目の数字は3。ハンターボックス3マス前進・・・
クリアまで残り4マス・・・。

ピット

「そろそろクリアに近い・・・!!」

ゆり

「次4出したらクリアだわ・・・!!」

6番目は、来海えりか・・・。

えりか

「とうとうこっちの出番か・・・」

プリキュアメンバー、再び立つ・・・。

ヴィータ

「お前でいいからさっさと出せ！」

くるみ

「あんたでいいから、早く出しなさいよ!!」

えりか

「こんな所で出してたまるか・・・!!」

ピット

「そんなに怒らなくても・・・」

えりかはサイコロを構える。

えりか

「それっ！」 ポイツ

ガラランガララン、ゴロゴロ・・・。

シャリオ

「クリアを望みます・・・!!」

ドンキー

「4・・・!! 4・・・!!」

シャマル

「4が絶対に出ます様に・・・!!」

サイコロが、止まった・・・。

出た目は・・・。

> i 3 5 7 7 8 — 4 2 6 0 <

プシュー!!!!!!

全員

「うわああああ〜!」

ゲーム、スタート・・・。

全員は一目散に逃げる。

4体のハンターの標的は・・・。

えりか

「こっちゅ!?!」

来海えりかだ・・・。

えりか

「ハズレ出して、こんなのって無いよ!!!!!!」

えりかはそのままずっと逃げる。

しかしハンターとの距離がだんだん縮んで行き、最早、逃走不可能・

・・。

えりか

「にゃあ〜!」 ポンッ

> i 3 5 7 8 0 — 4 2 6 0 <

えりか

「もう、悔しいよ〜・・・!! 何であたしがオープニングゲームの犠牲者にならなきゃなんないの・・・!?!」

来海えりか、早くもここに散る・・・。

プルルルル♪

シヤマル

「まさか・・・『来海えりか確保』!?!」

祈里

「うわあ、えりかちゃん捕まっちゃったよ!?!」

トゥーン

「まあ、あいつ捕まりそうだったけど・・・」

ヴィータ

「あたしの予想は当たったな・・・」

ヨッシー

「何て事をしてくれたんですか、えりかさんは・・・!!」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが・・・

run for money 逃走中

舞台は『ローゼンガーデン』。

そう、ここは静かなる大きな庭。

更にこの庭には大きな王国が立っている・・・。

ゲーム時間90分間での逃走劇が上げられる。

賞金は108万円。

また、更に、自首も出来る。

自首は、各エリアの電話ボックスで自首を報告すればそれまでの時点での賞金を獲得できる。

各エリアは

『ウォーターガーデン』、『ゴールドガーデン』、『スターガーデン』、

『ブルーガーデン』、『スカーレットガーデン』、『ストロベリーガーデン』、

『スノーガーデン』、『クリスタルガーデン』の8つのエリア。

逃走者達は、この8つのエリアで逃げ回る!!

アルル

「うわあ、本当に静かなる庭だ・・・」

エリアを下見する、アルル・ナジャ・・・。

響

「ついに来た、逃走中・・・！！逃げ切って見せるんだから・・・！！」

自信をつけている、北条響・・・。

シェゾ

「建物内には進入禁止か・・・。まあしょうがないよな」

隠れ場所を探す、シェゾ・ウイグイイ・・・。

シャリオ

「逃走中初参戦の私・・・。緊張します！！」

逃走中初参戦となる、シャリオ・フィニーノ・・・。
果たして、逃走成功なるか。

クロノ

「逃走中ってのは・・・凄く緊張するだけでなく、
運も必要だと思う」

運任せにしている、クロノ・ハラオウン・・・。

くるみ

「絶対に動きたくないわ・・・！！」

ミッションを人任せの、美々野くるみ……。
彼女が、どうゲームに影響するのか。

ヴィータ

「ああ、めんどっち……」

こちらも絶対に動かない、ヴィータ……。
彼女も、動く気は無い様だ……。

ひかり

「こっちにも、ハンターいる……!!」

逃走中初参戦となる、九条ひかりはすぐ近くの草原に身を隠す。

ひかり

「どうしよう……!!」

トゥーン

「ん？あれはピットか……」

トゥーンは早く身を隠す。

トゥーン

「あいつ走ってるし……。
もしかしたらハンターに追われてるかもしれないしな……」

ピット

「ん？自首ボックスか……」

ピット、自首ボックスを発見・・・。

ピット

「・・・いや！自首はしない・・・！今回の逃走中でも長く生き残って見せるんだ・・・！！！」

しかし、彼の近くに、ハンター・・・。

>i35781—4260<

ピット

「自首したら好感度下がるからね・・・ってハンター！？」

ハンター

「！」

見つかった・・・。

ピット

「うわー！早いよー！！」

一目散に逃げるピット。

しかしハンターとの距離がどんどん縮んで行く為撒き切れる訳が無い。

最早、逃走不可能・・・

ピット

「ぎゃあー！！」 ポンッ

>i35782—4260<

ピット

「うわあゝ．．．！！2番目に確保されちゃったよ．．．！！
最悪だ．．．！！」

天使、早くもここに散る．．．。

プルルル♪

シャリオ

「何．．．？『スターガーデンの公園にてピット確保』
うわあ、ピットさん早すぎますよ．．．！！」

アル

「開始早々二人もやられてるよ．．．！！」

レッド

「もう20人かよ．．．！？」

くるみ

「結局は動いたら絶対に捕まるのよ．．．！！」

ヴィータ

「あいつ．．．動くとかバカだよなコイツ．．．！！」

残る逃走者は、

響、くるみ、ひかり、ゆり、祈里、クロノ、シャリオ、マリオ、オ
リマー、レッド、
アルル、シェゾ、トゥーン、カービィ、ドンキー、ウォッチ、ヨッ
シー、シグナム、

ヴィータ、シャマルの20人・・・。

その時、ローゼンガーデン城にて重大な事が起こった・・・！！

続き&ゲームスタート(後書き)

残る逃走者は、

響、くるみ、ひかり、ゆり、祈里、クロノ、シャリオ、マリオ、オリマー、

レッド、アルル、シェゾ、トゥーン、カービィ、ドンキー、ウォッチ、ヨッシー、シグナム、ヴィータ、シャマルの20人・・・。

その時、ローゼンガーデン城にて重大な事が起こった・・・！！

ミッション1発動！（前書き）

最初のミッションが、ついに発動・・・！！

ミッション1発動!

とあるローゼンガーデン城にて・・・。

王子の部屋にて・・・。

王子（役：桜田ジュン）

「真紅達はまだなのか・・・？」

王子は自分の部屋を左右にうろつきながら待つ・・・。

王子（役：桜田ジュン）

「あの放火事件の犯人は見つかったのか・・・？」

その時、謎のベルの音が聞こえた・・・。

（ゴーン、ゴーン！！！！）

王子（役：桜田ジュン）

「なっ！？何だ！？」

王子は一刻も早く外に出た・・・。

スカーレットガーデンにて・・・。

王女（役：真紅）

「反抗はお止めください！」

住民全員

「何だ何だ！？何でここは封鎖するんだ！？」

住民A

「これじゃ十分に歩けねえじゃねえか！」

住民B

「封鎖を解除してくれ！！」

王女（役…真紅）

「こ、これは深い訳が・・・！！」

その時、王子がやって来た・・・。

王子（役…桜田ジュン）

「真紅！どうしたんだ！？」

王女（役…真紅）

「ジュン・・・！！この街にはある指名手配がいて・・・！！」

王子（役…桜田ジュン）

「指名手配・・・！？」

王女はその指名手配の紙を見せた・・・。

紙には、逃走者達の名前と顔が記入されていた・・・。

王子（役…桜田ジュン）

「それは・・・放火事件で疑われてる奴等じゃないか！」

王女（役：真紅）

「・・・（コクッ）」

王子（役：桜田ジュン）

「・・・！？そのドクロのマークは・・・」

このドクロのマークが、このゲームに影響する・・・。

プルルル♪

ドンキー

「こんな時にメール・・・？しかもうるせえし・・・！！」

『ミッション1』！？早速だ・・・！！」

くるみ

「『スカーレットガーデン付近にて王女達が揉め事をしている』」

クロノ

「『更に君達逃走者達は放火事件の指名手配となっている』」

オリマー

「『その疑いを晴らすには残り70分までに王女達に右腕を見せ』」

響

「『濡れ衣を晴らさなければならぬ、さもないと強制失格となる』
うわあ、とても厄介なミッションが早くも来ちゃったよ・・・！

」

マリオ

「『また、住民は逃走者達を見つけると大声で騒ぐ』
ちよっ、これはヤバイって!!」

MISSION? 濡れ衣を晴らせ!

スカーレットガーデン付近にて王女達が揉め事をしている。
更に君達逃走者達は放火事件の指名手配となっている。
その疑いを晴らすには残り70分までに王女達に右腕を見せ、
濡れ衣を晴らさなければならない。
さもないと、強制失格となる!

また、住民は逃走者達を見つけると大声で騒ぐ。

響

「強制失格・・・!? これは早く行かないと・・・!!」

ドンキー

「マジかよ・・・!! 俺等疑われてんのかよ・・・!!?」

くるみ

「嫌よ! 動くななんて自殺行為と同じよ!!」

ヴィータ

「誰が行くかよ! ミッションやって捕まってる!!」

オリマー

「行くしか無いでしょう、ここは・・・!!」

シェゾ

「選択肢は一つ!成功させる・・・!!」

マリオ

「しかも見かけられたら大声で騒がれるし・・・大変だ!!」

まさかの大ミッションに驚く、逃走者達・・・。

住民A

「あつ、放火犯だ!!」

住民B

「俺達を迷惑かけるな!!」

マリオ

「おい!!?俺等何もしてねえって・・・!!」

ドンキー

「おうわ、ここにもいるし!!」

シグナム

「囲まれている・・・!!お前達!ここから抜けるぞ!」

2人はシグナムの言う通り、住民の人ごみから何とか抜けた・・・。

住民C

「あつ、またいるぞ!」

ひかり

「だから私は放火犯じゃ・・・ってハンター!?!」

>i35789—4260<

ハンター

「!」

見つかった・・・。

ひかり

「ってキャー!!!!」

ひかりは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能・・・。

ひかり

「イヤー!!」 ポンッ

>i35790—4260<

ひかり

「こ、こんな筈じゃないのに・・・!!!」

プリキュアメンバーの一人、早くも2人目がここに散る・・・。

プルルル♪

ドンキー

「だから何・・・!? 『住民に騒がれ九条ひかり確保』!?」

シャマル

「ああ、ひかりさんが・・・!!」

くるみ

「やっぱり! 動いたらこうなる運命なのよ!」

ヴィータ

「あいつ始めから捕まってるって・・・しかも住民に・・・
バカだな、やっぱり・・・!!」

マリオ

「もう残り19人かよ・・・!!?」

王女達の方に向かうカービィ達・・・

カービィ

「うわあ、ハンターいるし・・・あつ、向こう行ってくれた・・・
!!」

よし、今の内だ・・・!!」

カービィはすぐに王女達の方に向かう・・・。

カービィ

「あれ？王女達が2人にいるし・・・」

揉め事が終わり、あの2人だけになっている・・・。

カービィ

「ちよつと、そこ？どうしたの？」

王子（役：桜田ジュン）

「なっ！？誰だ！」

王子は咄嗟にカービィの方に振り向く。

カービィ

「あわわ、僕達は放火犯じゃないよ！」

王女（役：真紅）

「あっ・・・この子、指名手配の・・・ドクロの刺青ある？」

カービィ

「刺青？無いよ・・・」

カービィは右腕を見せる。

王女（役：真紅）

「・・・見た所、刺青は無いわ。指名手配から外すわ」

カービィ

「やった！ありがとうございます！」

カービィ ミッションクリア

カービィ

「これで濡れ衣は晴らせたよ．．．！」

カービィは大喜びする．．．。

レッド

「カービィ！？お前、右腕見せたか？」

カービィ

「見せたよ？レッドも早く見せた方が．．．」

レッド

「勿論だよ．．．！！」

レッドは走りて王女達の元に向かう．．．。

王女（役：真紅）

「あれ？貴方は．．．放火犯として疑われてる．．．」

レッド

「だから俺等は放火犯じゃないんだって．．．！信じてくれよ．．．！！」

王子（役…桜田ジュン）

「・・・なら右腕を見せるんだ」

レッド

「・・・おう」

レッドは服の袖を捲くり、右腕を見せる。

王女（役…真紅）

「刺青は・・・無いわ。この紙から消しておくわ」

レッド

「良かった・・・！！」

レッド ミッションクリア

レッド

「よし、これで2人目だ・・・！！」

ヴィータ

「強制失格になるのはあたしだって嫌だけど動きたくねえし・・・！！」

そうだ、誰かに連れてって貰おう・・・！！」

ヴィータは携帯を出す。

プルルル♪

トウーン

「はい、もしもし？何だ、ヴィータか・・・何の用だ？」

ヴィータ

「今あたし、結構疲れてて動くの精一杯何だよ・・・！
だからあたしと一緒に王女達の所に連れて行ってくれ！」

トウーン

「・・・で、場所はどこなんだ？」

ヴィータ

「スカーレットガーデンの近くだ。それより、
住民がすげえいるから動きにくいんだよ・・・！！だから
一刻も早くあたしの所まで来てくれ・・・！！！」

トウーン

「自分の足で行けるじゃん、近いんだから・・・！！！」

ヴィータ

「ああもう！そんな事言っただけで早く来い、ケチ！！！」

ピッ！

トウーン

「でっ！！何だアイツ・・・！？！」

ヴィータ

「チッ、来てくれねえのかよ・・・!!」

ヴィータは即電話を切った。

クロノ

「住民に見つからずここまでたどり着いたぞ・・・!!」

その時、アルルが通りかかった。

クロノ

「アルル？お前、右腕見せたか？」

アルル

「ただだけど、そっちは？」

クロノ

「まだだ・・・今から向かう所だ！」

アルル

「ボクだって、そうだよ！」

クロノ、アルルと合流・・・。

王女（役：真紅）

「？貴方達は・・・！」

アルル

「ボク達は放火犯じゃないよ・・・!!」

王子（役：桜田ジュン）

「本当か？なら右腕を見せるんだ」

クロノ

「ああ・・・」

2人は服の袖を捲くり、右腕を見せる。

王女（役：真紅）

「・・・刺青は無いね。指名手配の紙から消しておくわ」

アルル

「ありがとうございます・・・!!」

クロノ

「助かった・・・!!」

アルル・ナジャ、クロノ・ハラオウン ミッションクリア

アルル

「ふゝ、これで疑われなくなった・・・!!」

クロノ

「他の奴等はまだ来てねえのか・・・!？」

疑いを晴らせた者は、

カービー、レッド、クロノ、アルルの4人・・・。

まだ疑いを晴らせていない者は、

響、くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、マリオ、オリマー、シェゾ、
トゥーン、

ドンキー、ウオッチ、ヨッシー、シグナム、ヴィータ、シャマルの
15人・・・。

果たして、全員、疑いを晴らせれるのか!？

ミッション1発動！（後書き）

疑いを晴らせた者は、

カービー、レッド、クロノ、アルルの4人・・・。

まだ疑いを晴らせていない者は、

響、くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、マリオ、オリマー、シェゾ、
トウーン、

ドンキー、ウォッチ、ヨッシー、シグナム、ヴィータ、シャマルの
15人・・・。

果たして、全員、疑いを晴らせるのか！？

疑いを晴らせ！（前書き）

指名手配されている逃走者達・・・。

果たして、逃走者達は、濡れ衣を晴らせれるのか！？

疑いを晴らせ!

カービィ

「実はあの指名手配の紙、逃走者の体も書いてあったんだよね・・・これは早くみんなに連絡しないと・・・!!!」

カービィは携帯を用意する。

プルルル♪

オリマー

「?何なんですか、一体・・・カービィさんからのメール?」

シャマル

「『皆、指名手配の紙には皆の体も書いてあって顔を隠しても疑われるんだ!』」

そ、そうだったの・・・!?!」

ドンキー

「『だから、なるべく顔も体も見つからないように気をつけて!』勿論だぜ、カービィ・・・!!!」

くるみ

「何でそんな厄介な事が紙に書いてあるのよ・・・!!!」

移動が困難な、逃走者達・・・。

牢獄DEトーク

えりか

「疑いを晴らすミッションか．．．」

ピット

「早く疑いを晴らさないと、強制失格になっちゃうもんな．．．」

ひかり

「私なんか、騒がれて．．．」

えりか

「指名手配の紙には皆の体も書いてあるんでしょ．．．？」

ピット

「顔を隠しても無駄って訳か．．．」

ひかり

「これは本当に困難なミッションね．．．」

マリオ

「うわ、ここにも住民いるって．．．！！
一体きっかけは何なんだよ．．．！？」

マリオ、住民に恐れて動けない．．．。

シャリオ

「ああ、ハンターがまだ向こうに行かない・・・！！
早くどっか行って・・・！！」

シャリオ、思う様に動けない・・・。

シェゾ

「何で初っ端から俺等疑われるんだよ・・・！？
どう考えてもおかしいだろ！？」

初っ端から疑われる事を、疑問に思っている・・・。

シグナム

「？お前達は・・・？」

シグナム、王女達の所に着いた・・・。

王女（役：真紅）

「あら？貴方は疑われてる・・・」

シグナム

「あたしは放火犯じゃない・・・！信じてくれ！」

王子（役：桜田ジュン）

「それなら、右腕を見せるんだ」

シグナム

「ああ・・・」

シグナムは服の袖を捲くり、右腕を見せる。

王女

「・・・刺青は無いわね。指名手配の紙から消しておくわ」

シグナム

「忝い・・・!!」

シグナム ミッションクリア

シグナム

「他の奴等もクリアしてると良いんだが・・・!」

その時、少女がシグナムの方に向かって来た・・・。

響

「シグナムさん・・・?」

北条響だ・・・。

シグナム

「響・・・! お前、右腕見せたか?」

響

「いえ、これから向かう所です・・・!」

シグナム

「そうか・・・すぐ近くだから落ち着いて行こう」

響

「はい・・・」

響、シグナムと一緒に王女達の方に向かった・・・。

王女（役：真紅）

「？貴方は・・・？」

響

「響です。放火犯じゃありませんよ・・・！」

王子（役：桜田ジュン）

「それなら、右腕を見せろ」

響

「はい」

響は服の袖を捲くり、右腕を見せる。

王女（役：真紅）

「・・・見た所刺青は無いわね。指名手配の紙から消しておくわ」

響

「ありがとうございます！」

北条響 ミッションクリア

響

「シグナムさんのお陰で助かりました・・・！ありがとうございます」

シグナム

「別に礼はいらぬが・・・

とにかく用は済んだ事だし、急いでここから離れよう！」

響

「はい！」

響、シグナムと合流・・・。

くるみ

「誰かにつれてって貰おうかしら・・・」

くるみ、携帯を用意する・・・。

プルルル♪

クロノ

「何だ・・・？もしもし？何だ、くるみからか・・・どうしたんだ？」

クロノにだ・・・。

くるみ

「あんた、右腕見せた・・・？」

クロノ

「見せたけど・・・それがどうしたんだ？」

くるみ

「なら、あたしを王女の所に連れて来てよ・・・！！」

クロノ

「はあ！？ヴィータと同じ事言ってる・・・
で、場所はどこら辺だ・・・？」

くるみ

「場所はクリスタルガーデンよ・・・。

兎に角、早く来なさい！」

クロノ

「だが、皆の事も考えて行動を・・・」

くるみ

「ウダウダうるさいわね！兎に角早く連れて来なさい！！」

ピッ！！

クロノ

「何なんだくるみは・・・！？偉そうに言いやがって・・・！！」

クロノ、先ほどの電話で怒っている・・・。

くるみ

「何よ・・・あたしの言う事が聞けないって訳!？」

くるみも先ほどの電話で怒っている・・・。
まるで、ヴィータが二人いるの様な感じだ・・・。

ヴィータ

「誰か来いよ・・・!! どうしてもこいつも断りやがって・・・!!」

ヴィータは前にほぼ全員に電話を掛けたのだが、勿論全員に断られたのだ・・・。

ヴィータ

「先輩の言う事が聞けねえって訳かよ・・・!？」

そう、簡単に思う通りには行かない・・・。

シェゾは王女達の元に着いた・・・。

シェゾ

「? お前ら・・・『ローゼンメイデン』の真紅と桜田ジュンか？」

王女（役：真紅）

「真紅・・・? あ、それより貴方、刺青はあるの?」

シェゾ

「俺は事件に関わってねえって・・・」

王子（役：桜田ジュン）

「なら右腕を見せろ」

シェゾ

「わかったよ・・・」

シェゾは服の袖を捲くり、右腕を見せる。

王女（役…真紅）

「・・・刺青は無いわね。指名手配の紙から消しておくわ」

シェゾ

「当たり前だろ・・・！」

シェゾ・ウィグイイ ミツシヨンクリア

その時、シャマルがシェゾの方に向かって来た・・・

シェゾ

「？シャマル？お前、右腕見せたか？」。

シャマル

「まだ見せてませんよ・・・そちらは？」

シェゾ

「俺はもう見せた・・・お前も早く王女達に右腕を見せて来るんだ・・・！」

シャル

「勿論です・・・！」

シャル、王女達の元に着く・・・。

王女（役：真紅）

「貴方は・・・？放火事件で疑われてる・・・」

シャル

「私は放火犯じゃありません・・・！！！」

王子（役：桜田ジュン）

「なら右腕を見せろ」

シャル

「はい・・・」

シャルは服の袖を捲くり、右腕を見せる。

王女（役：真紅）

「・・・見た所刺青は無いわね。指名手配の紙から消しておくわ」

シャル

「あつ、ありがとうございます・・・！！！」

シャル ミッションクリア

シャマル

「シェゾさんは、これからどうするつもりですか……？」

シェゾ

「俺は1人で行動する……」

団体で行動したらハンターに見つかりやすくなるからな……！」

シャマル

「そうなんですか……じゃあ」

2人は別々に分かれて行動した……。

シェゾ

（疑いを晴らせてないのは誰だ……？ まあ、それは考えない方がいいよな……）

疑いを晴らせた彼の近くに、ハンター……。

>i35808—4260<

シェゾ

「突然前から来るわけ……ってハンター!？」

ハンター

「!」

見つかった……。

シェゾ

「しかも、真正面から・・・！！前回の逃走中と同じ見つかり方やねえか！！」

シェゾは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つけた為、最早、逃走不可能・・・。

シェゾ

「ぐわあゝ！！」 ポンッ

> i 3 5 8 0 9 — 4 2 6 0 <

シェゾ

「俺が・・・こんなに早く散るとは・・・！！」

変態魔道士が、早くもここに散った・・・。

プルルルル♪

響

「なっ、何・・・！？『ローゼンブリッジにてシェゾ・ウイグイイ確保』！？」

アルル

「ええゝ！？捕まるの早いよゝ！！」

シャリオ

「あのシェゾさんが早く捕まるなんて、本当意外・・・！！」

くるみ

「やっぱりね・・・動くから捕まるのよ、アイツ!!」

ヴィータ

「こいつバカだろ・・・動くから捕まりやすくなるんだよ・・・!!」

疑いを晴らせた者は、
カービィ、レッド、クロノ、アルル、シグナム、響、シャマルの7人・・・。

まだ疑いを晴らせていない者は、
くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、マリオ、オリマー、トゥーン、ド
ンキー、ウォッチ、
ヨッシー、ヴィータの11人・・・。

果たして、このわずか7分で全員、疑いを晴らせるのか!?

疑いを晴らせ！（後書き）

疑いを晴らせた者は、
カービー、レッド、クロノ、アルル、シグナム、響、シャマルの7人・・・。

まだ疑いを晴らせていない者は、
くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、マリオ、オリマー、トウーン、ド
ンキー、ウォッチ、
ヨッシー、ヴィータの11人・・・。

果たして、このわずか7分で全員、疑いを晴らせれるのか！？

無実を証明せよ（前書き）

逃走者達は、疑いを晴らせれるのか！？

無実を証明せよ

王女の元に、シャリオが向かって来た。

シャリオ

「遅れちゃった・・・!!」

王女（役：真紅）

「あら？ 貴方は・・・？」

シャリオ

「私は放火犯ではありません・・・!!」

王子（役：桜田ジュン）

「なら右腕を見せろ」

シャリオ

「はい・・・」

シャリオは服の袖を捲くり、右腕を見せる。

王女（役：真紅）

「・・・刺青は無いわね。指名手配の紙から消しておくわ」

シャリオ

「ありがとうございます・・・!!」

シャリオ・フィニーノ ミッションクリア

シャリオ

「残るは10人ぐらいですね・・・!!」

そこに、マリオが遅れて到着・・・。

マリオ

「よし・・・あつ、シャリオ？お前、右腕見せたのか？」

シャリオ

「はい・・・！マリオさんも早く・・・！」

マリオ

「当たり前だぜ・・・!!」

マリオは王女達の元に到着・・・。

王女（役：真紅）

「あら？貴方は・・・？」

マリオ

「それよりも、俺は放火犯じゃない！」

王子（役：桜田ジュン）

「それなら右腕を見せろ」

マリオ

「わかったよ・・・!!」

マリオは服の袖を捲くり、右腕を見せる。

王女（役…真紅）

「・・・刺青は無いわね。指名手配の紙から消しておくわ」

マリオ

「勿論だろ・・・!!」

マリオ ミツシヨンクリア

マリオ

「シャリオ・・・!!ここからすぐ離れるぞ!!」

シャリオ

「あっ、はい・・・!!」

2人は別々に分かれて行動した・・・。

住民A

「あっ!!放火犯だ!!」

住民B

「ひっとらえろ!!」

ウォッチ

「私ハ放火犯ジャアリマセン!!」

ヨッシー

「だから、そんなに騒がないで下さい!!」

オリマー

「ま、待って下さい!」

3人は急いで住民の人ごみから出た・・・。

ハンター

「・・・」

運良く、ハンターに見つからなかった様だ・・・。

ウォッチ

「危ナカッタデスネ・・・」

オリマー

「早くここから離れましょう・・・!!」

3人は別々に分かれて行動した・・・。

ウォッチ

「ウワッ!? ココニモハンターガイルジャナイデスカ・・・!!」

逃げ場が無い、ウォッチ・・・彼の近くに、ハンター・・・。

> i 3 5 8 2 2 — 4 2 6 0 <

ウォッチ

「シカモココ、行き止マリダシ・・・」

ハンター

「!」

見つかった・・・。

ウォッチ

「イッタン引き返シマスカ・・・ツテハンター!?!」

ウォッチは一目散に逃げる。

しかし逃げた先が行き止まりな為、最早、逃走不可能・・・。

ウォッチ

「ビー!!」 ポンッ

> i 3 5 8 2 3 — 4 2 6 0 <

ウォッチ

「嘘デス・・・!!」

最古のゲームキャラ、ここに散る・・・。

プルルル♪

マリオ

「何だ・・・？『路地裏にてMr, ゲーム&ウォッチ確保』俺等の先輩が・・・！！」

シャリオ

「あのウォッチさんが・・・！？」

ドンキー

「もう残り17人かよ・・・！？」

くるみ

「この人・・・完全にバカね・・・！！」

ヴィータ

「コイツ・・・ミッションやる奴は、こうなる定めなんだよ・・・！！」

オリマー

「ウォッチさん捕まった・・・！！あつ、あれは・・・？」

オリマー、誰かを見かける・・・。

祈里

「オリマーさん・・・？」

山吹祈里だ・・・。

オリマー

「右腕見せましたか・・・？私はまだです」

祈里

「こちらものです・・・！急いで向かいましょう！！」

オリマー

「勿論です・・・！！」

2人は王女の元に走った。

王女（役：真紅）

「あれ？貴方達は疑われてる・・・」

オリマー

「違うんです・・・！！信じてください！！」

王子（役：桜田ジュン）

「なら右腕を見せろ」

祈里

「はあ・・・」

2人は服の袖を捲くり、右腕を見せる。

王女（役：真紅）

「・・・見た所刺青は無いわね。指名手配の紙から消しておくわ」

祈里

「ありがとうございます・・・！！」

オリマー

「良かった・・・!!」

山吹祈里、オリマー ミッションクリア

祈里

「ちよつと急ぎましょうよ・・・ハンター来るかもしれませんし」

オリマー

「そうでしたね・・・!!」

オリマー、祈里と合流・・・。

牢獄DEトーク

ウォッチ

「結構皆サンガクリアシテ来テマスネ」

シェゾ

「残るは17人か・・・何か早いな・・・」

ひかり

「クリアしてる人はこのボードによると、

『疑いを晴らせた者は、

カービィ、レッド、クロノ、アルル、シグナム、響、シャマル、

シャリオ、マリオ、
オリマー、祈里の11人。

まだ疑いを晴らせていない者は、
くるみ、ゆり、トゥーン、ドンキー、ヨッシー、ヴィータの6人』
ですね・・・」

えりか

「まだ6人もクリアしてないの・・・？」

ピット

「しかも残り3分ですよ・・・！？間に合うんですか・・・！？」

ひかり

「私達が出来る事は、祈るしかありませんね・・・！！」

ウォッチ

「ソウデスヨネ・・・！！」

牢獄の者達はクリアしてくれる事を祈る・・・。

ドンキー

「おっしや、王女の所に着いた・・・！！」

ドンキーも、王女の所に到着・・・。

王女（役…真紅）

「あれ？放火犯で疑われてる人・・・？」

ドンキー

「だから、俺等は放火犯じゃねえってのに・・・!!」

王子（役：桜田ジュン）

「なら、右腕を見せろ」

ドンキー

「おう・・・!!」

ドンキーは右腕を見せる。

王女（役：真紅）

「・・・刺青は無いわね。指名手配の紙から消しておくわ」

ドンキー

「当たり前だぜ・・・!!」

ドンキーコング ミッションクリア

ドンキー

「よっしゃ・・・!!これで残るは5人だぜ・・・!!」

その時、ヨッシーとトゥーンとゆりが遅れてやって来た・・・

ドンキー

「一気に3人も来たぜ・・・!!」

ゆり

「ごめんなさい、遅れて・・・!!」

ヨッシー

「早く王女の所に向かいましょう・・・!!」

トゥーン

「あの2人はまだ来てない様だけどな・・・!!」

ドンキーは3人を王女達の元に案内する。

王女（役：真紅）

「一気に三人も・・・？あれ、貴方達は？」

ゆり

「早くして下さいよ・・・！」

王子（役：桜田ジュン）

「真紅をせかすな。落ち着け。まずは右腕を見せろ」

ゆり

「はい・・・」

3人は服の袖を捲くり（ヨッシー以外）、右腕を見せる。

王女（役：真紅）

「・・・見た所刺青は無いわね。指名手配の紙から消しておくわ」

トゥーン

「勿論だぜ・・・!!」

ヨッシー、トゥーンリンク、月影ゆり ミッションクリア

ヨッシー

「すぐここから離れましょう・・・!!」

ヴィータ

「あたしただけか、ミッションクリアしてねえのは・・・!!?
こうなったら、自力で行くしかねえのか・・・!!?」

くるみ

「ああ、誰も来ないなんて・・・!! どうかしてるよ!!」

まだ疑いを晴らしていない者は、
くるみ、ヴィータの2人・・・。

果たして、彼女達は疑いを晴らせるのか!?

無実を証明せよ（後書き）

まだ疑いを晴らしていない者は、
くるみ、ヴィータの2人・・・。

果たして、彼女達は疑いを晴らせるのか!？

ミッション1終了!しかし・・・。(前書き)

まだ疑いを晴らしていない者は、
くるみ、ヴィータの2人のみ・・・。

果たして、この彼女等の運命は!?

ミッション1終了!しかし・・・。

>i35827—4260<

くるみ

「冗談じゃないわ・・・!!残り1分!？」

実は少しずつ移動している、くるみ・・・。

ヴィータ

「ああっ、くそっ!自力で向かうしか・・・!!」

2人はとうとう動き始めた・・・。

だが、彼女等の近くに、ハンター・・・。

ハンター

「・・・」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない・・・。

ヴィータ

「よっしゃ・・・!!見逃してやがる!住民も今ん所いねえしな・・・!!」

くるみ

「今の内に行きましょう・・・!!」

2人は王女の元に向かった・・・。

牢獄DEトーク

ウォッチ

「結局残ツタノハアノ2人デスカ・・・」

ウォッチはあのボードを眺めている・・・。

ひかり

「もう残り1分でしょ？多分クリア出来るわけ無いって・・・」

シエゾ

「おいおい・・・あの2人は強制失格決定か・・・？」

呑気に雑談していた・・・。

その頃、王女達は・・・。

王女（役：真紅）

「そういえば、『水銀燈』すいぎんどう、『金糸雀』かなりあ、『翠星石』すいせいせき
『蒼星石』そうせいせき、『雛苺』ひないちご、『雪華綺晶』きらきしょう
『薔薇水晶』ばらすいしょうはどこをほつつき歩いてるのかしら？」

王子（役：桜田ジュン）

「まだ分からないよ・・・あつ、誰か来たぞ」

くるみ

「遅れたし・・・!!」

ヴィータ

「あたしらだ〜!!」

美々野くるみとヴィータだ・・・。

王女（役…真紅）

「貴方達は？」

くるみ

「それよりも、あたし達は放火犯じゃないって事を・・・!!」

ヴィータ

「早くしてくれよ・・・!!」

王子（役…桜田ジュン）

「真紅をせかすな。まずは右腕を見せろ」

くるみ

「わかったわよ・・・!!」

ヴィータ

「これでいいだろ・・・!？」

2人は右腕を見せる。

王女（役…真紅）

「・・・刺青は無いわね。指名手配の紙から消しておくわ」

くるみ

「当たり前でしょ・・・!!」

美々野くるみ、ヴィータ ミッションクリア

くるみ

「さあ、さっさとここから離れるわよ!」

ヴィータ

「当たり前だ・・・!!」

> i 3 5 8 2 8 — 4 2 6 0 <

プルルルル♪

ドンキー

「何々・・・『全員の疑いが晴れ、ミッションクリア』」

響

「『更に、住民からも騒がれなくなった』良かった・・・!!」

シグナム

「強制失格者はいなかったか・・・安心した」

ミッシェンクリアに安心する、逃走者達・・・。

牢獄DEトーク

シエゾ

「どうやら皆クリアした様だな」

えりか

「放火事件で噂になっている様だね」

ひかり

「まさか逃走者達が疑われるとは・・・」

ウォッチ

「ソレヨリモ、何カ変ナ臭イシマセンカ・・・？」

ピット

「・・・あつ、確かに・・・これは火の臭い？」

ヨッシー

「あつ、ハンターいる・・・!!」

ヨッシーは近くの草原に隠れやり過ごす・・・。

シャル

「4体のハンターはとても厳しいわね・・・!!」

くるみ

「動いたら行けないみたいね・・・」

ヴィータ

「動かない方が、勝ちって訳だ・・・!!」

その頃、蒼星石は・・・。

兵士1（役：蒼星石）

「そろそろ夜が明けますね・・・」

蒼星石は放火事件の犯人を捜していた・・・。

兵士1（役：蒼星石）

「・・・ん？何ですかこの臭いは・・・？」

蒼星石はその臭いをたどる。その先には・・・。

兵士1（役：蒼星石）

「・・・！？何なんですか、あれは・・・！？」

蒼星石は火災現場を発見する・・・。

兵士1（役：蒼星石）

「放火事件が起きてます・・・!! 誰かに助けを呼ばないと・・・!!」

蒼星石は困り果てる・・・。

兵士1（役…蒼星石）

「水を放つ能力を持ってるけど・・・」

「誰でも良いから一人でもいないと能力を発揮出来ません・・・!!」

偶然、ブルーガーデンには蒼星石ただ一人になっている・・・。

火災現場の中には・・・。

ハンター

「・・・」

ボックスの中にハンターが3体凍結していた・・・。

プルルルル♪

ヨッシー

「うわっ!?! いきなり鳴らないで下さいよ・・・!!」

クロノ

「『ブルーガーデンにて放火事件が発生した』

ほ、放火事件!?!」

アルル

「『残り50分までに蒼星石と合わせ水の能力を発揮しないと』」

シャリオ

「『3体のハンターが解き放たれる』今度はハンター放出・・・！
？」

MISSION？ ハンター放出を阻止せよ！

ブルーガーデンにて放火事件が発生した。

残り50分までに蒼星石と合わせ水の能力を発揮しないと、
3体のハンターが解き放たれる！

オリマー

「3体放出・・・合計7体になるって事ですか！？」

マリオ

「これは危ねえミッションだな・・・！！」

ただし、エリアには4体のハンター・・・。

動けば、捕まるリスクが高まる・・・！！

残る逃走者は、

響、くるみ、ゆり、祈里、クロノ、シャリオ、マリオ、オリマー、

レッド、アルル、

トウーン、カービー、ドンキー、ヨッシー、シグナム、ヴィータ、
シャマルの17人・・・。

果たして、ハンター放出を阻止出来るのか!?

ミッション1終了!しかし……。(後書き)

残る逃走者は、

響、くるみ、ゆり、祈里、クロノ、シャリオ、マリオ、オリマー、

レッド、

アルル、トウーン、カービィ、ドンキー、ヨッシー、シグナム、ヴ

イーダ、

シャルの17人……。。

果たして、ハンター放出を阻止出来るのか!?

ハンター放出を阻止せよ！（前書き）

逃走者達はハンター放出を、阻止出来るのか！？

ハンター放出を阻止せよ！

オリマー

「行きますか・・・」

シグナム

「いったい何人分の力がいるのは分からないが、とにかく行ってみる！」

マリオ

「ここは任せた・・・！」

ドンキー

「ここは行かない・・・」

アルル

「どうしよう・・・行こうかな？」

祈里

「行くしかありません・・・！！！」

シャリオ

「ここは様子を見ましょう・・・安全だったら行きます」

くるみ

「あたしは絶対にやらないわよ！動いたら捕まるの確定してんもん！！！」

ヴィータ

「ミッション！？行く訳ねえじゃん！ミッションやる奴はとつとと捕まってる！！」

行く人もいれば、行かない人もいる・・・。

オリマー

「ここはクリスタルガーデンに入る橋ですね・・・
ハンターは・・・いませんね」

オリマーは周りを見て行動する・・・。

シャリオ

「まだ誰も捕まってませんね・・・」

シャリオはまだ状況を見ている・・・。

レッド

「俺は今回行かないかな・・・？
だって、ハンターに見つかりやすくなるんだろ・・・？」

慎重派の、レッド・・・。

シャマル

「うわっ！？ここにもハンターがいます・・・！！
全く、ハンターは神出鬼没ですね・・・！！！」

シャマル、ハンターに怯えて上手く動けない・・・。

牢獄DEトーク

ピット

「今度は火を消すミッションか・・・」

シェゾ

「いったい何人分の力があるんだ・・・？」

ひかり

「わかんないですよ、そこまでは・・・」

えりか

「うわあ・・・ハンター放出しないで・・・」

ウォッチ

「ヴィータサントクルミサンハ絶対ニ動ク気ハ無サソウデスカラ
事実上15人デ挑ム事ニナルノデハ・・・？」

シェゾ

「正直あいつ等には期待出来ねえな・・・」

オリマー

「「ここら辺のはずなんだけどな・・・」

油断してる彼の近くに、ハンター・・・。

> i 3 5 8 3 6 — 4 2 6 0 <

オリマー

「あれゝ？おかしいな・・・」

迷ってしまった、オリマー・・・。

彼はまだ、ハンターに気づいていない・・・。

ハンター

「！」

見つかった・・・。

オリマー

「多分・・・ってハンター！？」

オリマーは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターの足に適う訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

オリマー

「ひいやあゝ！」 ポンッ

> i 3 5 8 3 7 — 4 2 6 0 <

オリマー

「最悪だゝ・・・」

ベテランの宇宙飛行士、ついにここに散る・・・。

プルルル♪

マリオ

「ハンターに見つかって・・・!!」

『ブルーガーデン湖付近にてオリマー確保』

嘘だろ!？」

祈里

「うわあ、オリマーさん捕まっちゃった・・・!!」

ヨッシー

「残るは16人です・・・!!」

くるみ

「ほらね!結局は捕まる運命なのよ・・・!!」

ヴィータ

「コイツバカだ・・・ミッションに動くからそうなるんだよ・・・!!」

シャリオ

「一人捕まった・・・どうしよう・・・」

ミッションに行くか行かないか、迷っている様だ・・・。

響

「行こう・・・!! ハンターに怯えててもしょうがないよ・・・!!」

響、当たって碎ける気で行く様だ・・・。

レッド

「!? あれハンターじゃねえのか・・・!?」

レッドはすぐに身を隠す。

ハンター

「・・・」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない・・・。

レッド

「ハンターが存在してる事自体怖えよ・・・!!」

ヨッシー

「ここはどうしよう・・・一人捕まっちゃったんでしょ?」

ヨッシーはスノーガーデンで彷徨っている・・・。

ヨッシー

「もしまた誰か捕まったら、行く気失せますよ・・・!!」

彼は誰かが捕まる事を恐怖を覚える・・・。

しかし、彼の近くに、ハンター・・・。

> i 3 5 8 3 5 — 4 2 6 0 <

ハンター

「!」

見つかった・・・。

ヨッシー

「なるべく姿を隠して移動し・・・ってハンター!？」

ヨッシーは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つけた為、最早、逃走不可能・・・。

ヨッシー

「ぎゃゝ!!」 ポンッ

> i 3 5 8 3 8 — 4 2 6 0 <

ヨッシー

「と言ってる私が捕まった・・・最悪です・・・!!」

大食い恐竜、またここに散る・・・。

プルルルル♪

クロノ

「何だ・・・!?! 『ゴールドガーデンにてヨッシー確保』
あのヨッシーが・・・!!」

アルル

「うわ、ヨッシーも捕まったの！？ちと早過ぎない！？」

くるみ

「やっぱり捕まったわね・・・動いたら負けなのよ・・・!!」

ヴィータ

「また捕まったのかよ・・・本当バカだよなコイツ・・・!!」

まさかのヨッシー確保に驚く、逃走者達・・・。

シャリオ

「もう2人も捕まってる・・・もう行かない方がいいでしょう・・・」

「

シャリオはミッシオンを諦めた・・・。

クロノ

「2人も捕まったのかよ・・・？ここはもう行かん・・・!!」

クロノも、ミッシオンを諦めた・・・。

トゥーン

「うわあ・・・ここは隠れる！」

トゥーンは近くの草原に身を隠す・・・。

アルル

「あれ？あの子、蒼星石じゃないの・・・？」

アルルはブルーガーデンに到着し、蒼星石と出会った・・・。

アルル

「どうしたの・・・？」

兵士1（役：蒼星石）

「もう人事じゃないんです・・・！力を貸してください！」

アルル

「水の能力を発揮する為だね、分かった！」

兵士1（役：蒼星石）

「お願いします！」

アルルは蒼星石の近くに寄る。

兵士1（役：蒼星石）

「行くぞ！・・・ってあれ？」

蒼星石は水の能力を発揮しようとするが、何故か不発する・・・。

アルル

「えっ・・・？どうなってるの！？」

兵士1（役：蒼星石）

「しまった・・・！！これは5人いないと

発揮出来ない事を忘れてました・・・！！」

アルル

「嘘でしょ……？これを早く皆に伝えないと……！！」

アルルは携帯を取り出す。

プルルル♪

ドンキー

「また確保情報とかじゃないだろうな……って、アルルからのメール？」

クロノ

「『蒼星石の力を発揮するには、後4人必要です！』 えっ！？4人って……」

ゆり

「『ボクは5人の内の一人です。誰でも良いので4人来て下さい！』 メールはこれだけね……」

シグナム

「5人分の力が必要なのか……！？」

ヴィータ

「はあ！？厄介事が今知らされるのかよ……！？」

くるみ

「後4人……あたしは絶対に行かないけど……！！」

牢獄DEトーク

ヨッシー

「後4人が必要ですか・・・これは厳しい状態になって来ましたね・
・・・」

オリマー

「ヴィータさんとかくるみさんとかはあまり期待は出来ませんけど・
・・・」

シェゾ

「今ん所状況を見て人任せにしている奴等が多いよな・・・」

えりか

「誰かが行ってくっと思ってるんじゃない・・・？」

響

「あれっ？アルル？」

アルル

「響ちゃん！」

響は偶然アルルの近くにいた為、すぐに到着した・・・。

兵士1（役：蒼星石）

「響さん・・・？これで後3人です・・・！！」

響

「三人・・・まだまだじゃない！？」

果たして、この鬼畜なミッションをクリア出来るのか！？

ハンター放出を阻止せよ! (後書き)

果たして、この鬼畜なミッションをクリア出来るのか!?

ミッション2終了！(前書き)

残るは後3人・・・。

ミッション2終了!

トゥーン

「正直動きたくない・・・見つかりやすくなるし」

トゥーン、動く気は無いそうだ・・・。

シャリオ

「もう2人も捕まってるんでしょう・・・？動きたくありませんよ・・・」

シャリオ、ハンターに怯えている・・・。

シグナム

「ここにもハンターがいる・・・!!くそっ」

シグナム、思い通りに動けない・・・。

くるみ

「あたし動きたくない・・・!!動いたらハンターに見つかるし・・・」

意地でもこの女は動きたくない様だ・・・。

ヴィータ

「あいつらちゃんとミッション成功しろよ・・・!!」

こちらは人任せの、ヴィータ・・・。

祈里

「あれ・・・？蒼星石じゃないですか？何してんですか？」

兵士1（役：蒼星石）

「祈里さん・・・！力を貸してください！」

祈里

「あっ・・・そうでした。では力を貸します！」

山吹祈里も、力を貸す・・・。

アルル

「これで後2人か・・・」

響

「ていうか、男の逃走者情けないでしょ・・・？」

シャル

「って、ここにも・・・ハンターが！」

シャルも、思う通りに動けない・・・。

シャル

「・・・あれ？マリオなにしてんだろ」

シャルはマリオに声をかけようとするが、ハンターが近くにいた為、上手く声をかけられない・・・。

マリオ

「うわあ、ここにもハンター・・・ってシャマル？」

マリオはシャマルに声をかけようとするが、ハンターが近くにいる為、上手く声をかけられない・・・。

マリオ

「相打ち？」

カービィ

「ここにもハンターいるって・・・！！気をつけた方が・・・」

トゥーン

「そうだよな・・・僕だって意地を見せてやる！」

男性逃走者は、クロノ、マリオ、レッド、トゥーン、カービィ、ドンキーの6人・・・。

クロノ

「ここには長時間いないほうがいいな・・・」

クロノ、慎重に歩く・・・。

しかし、彼の近くに、ハンター・・・。

クロノ

「・・・？あれハンターか・・・！？」

> i 3 5 8 5 5 — 4 2 6 0 <

クロノはハンターに早く気づき、逃げる……。

ハンター

「……」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない……

クロノ

「よし……ってあれは……？」

クロノ、いつの間にかブルーガーデンに到着していた……。

兵士1（役…蒼星石）

「クロノさん……？ 丁度良かったです……！！ 力を貸してください」

クロノ

「ああ、あれか……よし分かった！ 協力しよう」

兵士1（役…蒼星石）

「有難うございます！」

クロノも、力を貸す……。

アルル

「これで残るは後1人……！！」

響

「早く誰か来てよ・・・!!」

祈里

「誰でも良いから・・・!!」

マリオ

「あっ・・・!! ハンターが俺の方に向かってくる・・・!!
まずいぞ、早く身を隠さないと・・・!!」

マリオは草音を立て、すぐに身を隠す・・・。

だが、遅かった・・・。

> i 3 5 8 5 6 — 4 2 6 0 <

ハンター

「!!」

見つけた・・・。

マリオ

「草むらの後ろにいれば絶対に見つからないだろ・・・!!」

しかし、彼はハンターに見つかってる事にまだ気づいていない・・・。

マリオ

「・・・? この足音は・・・ハンター!？」

ようやく気がついた・・・。

ハンター

「・・・」

マリオは一目散に逃げる。

しかしハンターとの距離があまりにも近すぎた為、最早、逃走不能・・・。

マリオ

「ぎょえ〜!!」 ポンッ

> i 3 5 8 5 9 — 4 2 6 0 <

マリオ

「俺が・・・スーパースターの俺があ・・・」

任天堂のスーパースターが早くも散る・・・。

プルルルル♪

カービィ

「だから何・・・!? 『草原広場にてマリオ確保』
うわっ、あのマリオが!?!」

ドンキー

「『残り14人』。うわあ、男の逃走者がまた減ったし!」

ヴィータ

「コイツ・・・動いた故の結果だよな・・・」

くるみ

「動いちゃうとか・・・捕まるのはわかってるのに何で!?!」

レッド

「とうとうマリオが確保されたか・・・」

レッド、このままずっと隠れている・・・。

レッド

「しかも近くにハンターいるし・・・どうにかならないのか、これは・・・!?!」

レッド、思うように動けない・・・。

シャリオ

「現に3人も確保されてるんですよ・・・!これは行かない方が良いです・・・!?!」

シャリオは状況を読んで行動している・・・。

ゆり

「こちらも・・・同じく状況を読んで行動しているわ・・・!?!」

月影ゆりも、シャリオを同じく慎重派だ・・・。

くるみ

「残りは14人・・・まあ、あたしは隠れてるだけで問題無いけどね・・・!!」

ヴィータ

「ルールに則ってやってるだけだぜ・・・!!」

この女達は、意地でも動く気は無い様だ・・・。

トゥーン

「よし・・・!向こう行った・・・!!」

カービィ

「良かった・・・!この後どうする?別れて行動する?」

トゥーン

「その方が良いぜ・・・じゃあ、またな」

2人は別々に分かれて行動した・・・。

しかし、分かれた2人の間に、ハンター・・・。

>i35857—4260<

ハンター

「!」

見つかった・・・。

カービィ

「・・・！？見つかったよ！！」

トゥーン

「うわあ、マジヤベえ〜！！！！！！」

2人は一目散に逃げる。

そのハンターの標的は・・・。

カービィ

「うぎゃああああ〜！来るな〜！！」

カービィだ・・・。

トゥーン

「！？カービィの方が追われてやがる・・・！！」

ハンター

「・・・」

カービィはそのまま逃げる。

しかし彼がハンターの足に適う訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

カービィ

「ひぎゃあ〜！！」 ポンッ

> i 3 5 8 6 0 — 4 2 6 0 <

カービィ

「僕が……!! トウーンごめんな……」

トウーン

「……なっ!? カービィ捕まったのかよ……!?!」

トウーンはそのまま逃げ続けた……。

プルルルル♪

ドンキー

「だからいつも何なんだ……!?! また確保情報!?!」

『スターガーデンの草原付近にてカービィ確保』
うわっ、カービィも!?!」

トウーン

「やっぱり……!! っていうか、逃げ切れそうな奴等がどんどん捕まっ
て行く……」

くるみ

「結局は動いたら捕まるのね……!!」

ヴィータ

「何やってんだアイツ……!?! 情けねえな……」

響

「うわあ、もう3分だよ……!!? 絶対来ないって……!!!」

アルル

「本当に、誰か来てよ……!!!」

その時、救いの手が差し伸べられた……。

その人物とは……。

トゥーン

「よし……!! 俊足を活かして着いたぞ……!!!」

トゥーンリンクだ……。

アルル

「トゥーン! 急いで!」

トゥーン

「当たり前だ……!!!」

兵士1（役…蒼星石）

「トゥーンさん! 僕に力を貸して下さい!」

トゥーン

「当たり前だぜ……!!!」

トゥーンは蒼星石の傍に近寄る・・・。

兵士1（役：蒼星石）

「これで5人集まりました・・・！！では・・・！！」

蒼星石は大きな鍬を用意し、風と水を作り出す。

兵士1（役：蒼星石）

「はあっ！！」

蒼星石はその合成した力を火災現場に放つ！

メラメラ・・・シュ・・・。

火災現場が、治まった・・・。

>i35828—4260<

アルル

「やった！炎が消えた！！」

響

「よっしゃー！！」

クロノ

「これで事件は解決したな・・・!!」

祈里

「やりましたね・・・!!」

トゥーン

「でも、まだ安心は出来ないぜ・・・」

まだこれで事件は解決していないのだ・・・。

プルルル♪

ゆり

「何よ・・・？『アルル・ナジャ、北条響、山吹祈里、クロノ・ハラウン、

トゥーンリンクの活躍によってミッションクリア』
あの人達凄いわ・・・!!」

ドンキー

「トゥーン、やるな・・・!!」

ヴィータ

「やっとミッション成功したか・・・」

くるみ

「ハンター放出されなくて良かったわ・・・」

その時、ハンターが5人の姿を捉えた・・・。

>i35858—4260<

ハンター

「!」

見つかった・・・。

アル

「あれっ!? ハンターが来てる!!」

トゥーン

「マジかよ!? 折角クリアしたのによ!?」

5人

「うわあ〜!」

5人は一目散に逃げる。

そのハンターの標的は・・・。

クロノ

「俺かよ・・・!?!」

クロノ・ハラオウンだ・・・。

クロノ

「ちよっ・・・!!これヤバイって!!」

クロノはまだ逃げ続ける。

しかしハンターとの距離がじよじよに縮んでいく為、最早、逃走不可能・・・。

クロノ

「ぐわあゝ!!」 ポンッ

> i 3 5 8 6 1 — 4 2 6 0 <

クロノ

「マジかよ・・・!!?折角クリアしたのに・・・!!」

ブルルルル♪

ドンキー

「今度は何だ・・・!!? 『元火災現場近くにてクロノ・ハラオウン確保』

えっ!!? そんな、何で!!?」

レッド

「ミッション活躍した奴が、早く捕まった!?!」

ヴィータ

「何やってんだよアイツ・・・!!見せ所あったのによ・・・!!」

くるみ

「残るは12人・・・まあ殆どが動いた人だけだね・・・!!」

牢獄DEトーク

ひかり

「蒼星石っていう子と一緒に力を合わせてクリア出来たみたいです
ね」

カービィ

「良かった・・・でもお腹減った・・・」

ウォッチ

「ゲーム終了時ニ食べ物ガ送ラレテ来ルノデソレマデ我慢シテ下サ
イ・・・」

カービィ

「ええ・・・?」

カービィは腹が減って我慢出来ない様だ・・・。

残る逃走者は、

響、くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、レッド、アルル、トゥーン、
ドンキー、

シグナム、ヴィータ、シャマルの12人・・・。

果たして、逃げ切る者は、誰だ・・・！？

ミッション2終了！（後書き）

残る逃走者は、

響、くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、レッド、アルル、トウーン、
ドンキー、

シグナム、ヴィータ、シャマルの12人・・・。

果たして、逃げ切る者は、誰だ・・・！？

ミッション3発動！（前書き）

またまたミッション発動・・・！！

ミッション3発動!

残る逃走者は、

響、くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、レッド、アルル、トゥーン、ドンキー、

シグナム、ヴィータ、シャマルの12人。

ドンキー

「ミッション来るんじゃないぞ・・・!!」

アルル

「さっきの走りで体力使っちゃったよ・・・!!」

ゆり

「どうやらここから動かない方がいいわね・・・!!」

その頃、金糸雀は・・・。

バイオリスト（役…金糸雀）

「城に戻って来たけど誰もいないの・・・?」

金糸雀は玄関から入り、誰もいない暗闇の城の中を彷徨う。

バイオリスト（役…金糸雀）

「・・・あれ? 何この気持ち悪い感じは・・・?」

金糸雀はクラツとし、その場に倒れる。

バイオリスト（役…金糸雀）

「・・・病気かな・・・？薬草があれば治せるんだけど・・・！！
今は持っていないよ・・・！！」

金糸雀は謎の病気にかかり、動けない・・・。

プルルル♪

レッド

「何だ・・・？『ミッシヨン3』！？」

ドンキー

「『バイオリストが謎の病気によって倒れた』謎の病気？」

アルル

「『残り35分までにバイオリストの病気を薬草で治し、倉庫の鍵を貰い』」

シャリオ

「『倉庫の中にある賞金単価減額阻止装置を2人同時に起動しなければ』」

響

「『終了後に賞金単価が50円となる』うわあ、賞金単価下がるの！？」

MISSION? 賞金単価減額を阻止せよ!

バイオリストが謎の病気によって倒れた。

残り35分までにバイオリストの病気を薬草で治し、倉庫の鍵を貰い、

倉庫の中にある賞金単価減額阻止装置を2人同時に起動しなければ、終了後に賞金単価が50円となる!

ドンキー

「ここは任せた・・・!!」

シャリオ

「どうしよう・・・?行きますかな?」

祈里

「賞金単価減るんでしょう・・・?なら行くしかありません!」

ヴィータ

「ミッション!?やる奴はとっとと捕まっちゃえば良いんだよ!!」

くるみ

「あたし等は動かないからね!!」

シャル

「行こうかな・・・?」

アルル

「行くしかない・・・!!」

レッド

「どうしよう・・・ここは行つとした方が良いか・・・」

行かない人が結構いる様だ・・・。

シャル

「あれっ? 城近い・・・バイオリストに薬草がどこにあるか少し聞いて見ようか」

偶然にもシャルは城の近くにいた為、情報を早く聞き出せられるのだ・・・。

シャル

「すいません・・・? バイオリストはいませんか?」

バイオリスト (役: 金糸雀)

「ここだよ・・・」

シャル

「え?」

シャルは声ができる方に駆け付ける。

シャル

「だ・・・大丈夫？」

バイオリスト（役…金糸雀）

「うゝん・・・大丈夫じゃないよ・・・!!」

シャル

「そう・・・少し聞くけど良い？薬草はどこに売ってるの？」

バイオリスト（役…金糸雀）

「ゴールドタウンの市場に売ってるよ・・・」

でも、銀貨を1枚使わないと買えないの・・・」

シャル

「・・・情報ありがとう。

頑張って！すぐ持ってくるから！」

バイオリスト（役…金糸雀）

「うん・・・」

シャルは大急ぎで城から出た。

シャル

「これは一大事だよ・・・早く治してあげないと・・・!!」

シャルは携帯を用意し、一斉にメールを逃走者に送信する。

プルルル♪

レッド

「気づかれるだろ・・!! シャマルからのメール?」

ドンキー

「『皆さん、薬草の位置がわかりました!』」

シグナム

「『薬草はゴールドガーデンの市場で銀貨一枚で買えます!』
やるな、シャル・・!!」

シャル

「よし、メールで伝えた事だし、行くか・・!!」

しかし、彼女の近くに、ハンター・・。

> i 3 5 8 9 8 — 4 2 6 0 <

シャル

「真正面からハンター来てる・・! ?」

ハンター

「!」

見つかった・・。

シャル

「ってイヤー!!」

シャルは一目散に逃げる。

しかし彼女がハンターの足に適う訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

シャル

「きゃあゝ!!」 ポンッ

> i 3 5 9 0 0 — 4 2 6 0 <

シャル

「もう・・・悔しい・・・!! 何で治そうとした途端に・・・!!」

プルルルル♪

アル

「何・・・? 『ローゼンガーデン城付近にてシャル確保』
ええっ!? シャマルがすぐ確保!?!」

レッド

「伝えたのに何で!?! これは変だぞ・・・!!」

ヴィータ

「何やってんだアイツ・・・! 折角見せ所あったのによ・・・!!」

くるみ

「やはり動かない方が勝ちって訳ね・・・!!」

牢獄DEトーク

クロノ

「今度は賞金単価が減るのか・・・」

ヨッシー

「残るは11人で厳しいですね・・・!!」

シェゾ

「でも、事実上9人で挑む事になるんだろ？あの2人には正直期待出来ねえし・・・」

牢獄は少しだけ和気藹々している様だ・・・。

アルル

「あれっ？着いた・・・!!」

アルル、ゴールドガーデンの市場に到着・・・。

アルル

「これ、薬草？」

アルルは薬草を見かける。

アルル

「すみません！薬草欲しいんですけど・・・」

商人

「薬草は銀貨1枚で買えるよ。買う？」

アルル

「勿論です！」

アルルは銀貨を差し出す。

アルル・ナジャ 薬草獲得

アルル

「有難うございました！」

アルルは城に向かって走っていった。

響

「どうしよう・・・！！ハンターどこに行ってもいるじゃん・・・！！」

響、怖がりながらも動いている・・・。

しかし、知らぬ内に挟み撃ちだ・・・。

> i 3 5 8 9 9 — 4 2 6 0 <

2体のハンター

「！」

見つかった・・・。

響

「あれ・・・？前からハンター来てるじゃん！？後ろからも！？」

最早、逃走不可能・・・。

響

「ひぎゃあー！！」 ポンッ

> i 3 5 9 0 1 — 4 2 6 0 <

響

「うそー！？ここで負けるのー！！！？」

逃走中の大本命となっている北条響が、早くもここに散った・・・。

プルルルル♪

祈里

「今度は何・・・？『スターガーデンサークルにて北条響確保』
嘘でしょ！？」

アルル

「逃走中の大本命が捕まったの！？」

レッド

「逃げ切れそうな奴等がどんどん捕まって行く・・・！！」

ヴィータ

「コイツも確保されたか・・・好感度上げようとするからそうなる
んだよ・・・！！」

くるみ

「無駄に動いたら負けね・・・！！」

残る逃走者は、

くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、レッド、アルル、トウーン、ドン
キー、

シグナム、ヴィータの10人。

果たして、賞金単価減額を阻止出来るのか！？

ミッション3発動！（後書き）

残る逃走者は、

くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、レッド、アルル、トゥーン、ドンキー、

シグナム、ヴィータの10人。

果たして、賞金単価減額を阻止出来るのか！？

ミッション3終了!だが・・・。(前書き)

果たして、バイオリストの病気を治す事が出来るのか!?

ミッション3終了!だが・・・。

レッド

「これで男性は3人だけか・・・」

残る男性逃走者は、レッド、トゥーン、ドンキーの3人のみ・・・。

レッド

「俺等情けねえじゃん・・・自分でも自覚してるけど」

牢獄DEトーク

響

「残りは10人ね・・・」

シヤマル

「ていうか男の逃走者もうちょっと頑張つてよ・・・!!」

クロノ

「お前何て言い方だ・・・」

ピット

「!!それは・・・ちよつとね」

シェゾ

「俺等はたまたま運が無かったというか・・・」

カービィ

「お腹減ったく・・・」

ヨッシー

「私達だってもっと頑張ってたかったですよ・・・!!」

ウォッチ

「私何力・・・」

マリオ

「俺等は、ここで何をしてれば良いんだ・・・？」

アルル

「あれっ？祈里ちゃん？何してんの？」

アルル、祈里と出会う・・・。

祈里

「アルルちゃんこそ、薬草を持って・・・あっ、バイオリストの病気を治す為に動いてるの？」

アルル

「そうだけど・・・そっちは？」

祈里

「私も参加しようと思って・・・良い？」

アルル

「勿論だよ！人手が多いと助かるからね！」

祈里

「ありがとう！」

アルル、祈里と合流・・・。

シャリオ

「あれ、アルさんと祈里さんじゃないの・・・？」

シャリオはアルルと祈里が合流している所を発見する・・・。

シャリオ

「しかも薬草持つてる・・・？バイオリストの病気を治す為ですね」

シャリオは周りを見て行動するのが得意だ・・・。

トゥーン

「薬草手に入れてえけど、もうアルルがゲットしてんだよね・・・」

。トゥーンは偶然アルルが薬草を購入する所を見ていたのだった・・・。

トゥーン

「大丈夫かアイツ・・・？」

ローゼンガーデン城付近にて。

祈里

「ちょっと急いだ方が良いよ……！」

アルル

「わかってるよ……！」

2人は城に入り、金糸雀の傍に近寄る。

バイオリスト（役…金糸雀）

「あつ、それは薬草……？」

アルルちゃん、祈里ちゃん、ありがとう……！」

アルル

「良いよ……！はい、薬草」

アルルは金糸雀の口に薬草を食べさせる。

祈里

「……あつ、熱が下がりました……！」

バイオリスト（役…金糸雀）

「……やった！すっかり治ったかしら！」

金糸雀は元気になり、大喜びする。

バイオリスト（役…金糸雀）

「はい、お礼！倉庫の鍵あげるよ！」

祈里

「あつ、これですね・・・ありがとうございます！」

山吹祈里 倉庫の鍵獲得

アル

「倉庫に向おう！」

2人は倉庫へと向かった。

ヴィータ

「ああ、早くクリアしろよ・・・」

ヴォルケンリッターのアタッカー、ヴィータは全く動く気が無い様だ・・・。

くるみ

「動くのめんどくさい・・・早く誰かクリアして・・・!!」

プリキュアメンバーの美々野くるみも全く動く気が無い様だ・・・。

ゆり

「倉庫がある・・・でも倉庫の鍵持っていないわ・・・」

ゆりは倉庫に向かいたい気持ちでいっぱいだ・・・。

レッド

「あっ！ハンターいるって・・・！！」

レッドは静かに身を隠す。

ハンター

「・・・」

しかし、ハンターは、まだ気づいていない・・・。

レッド

「何で逃走中にはミッションというもんがあるんだ・・・？」

レッドは何故逃走中にミッションがあるかを疑問に持つ・・・。

牢獄DEトーク

シェゾ

「どうやらバイオリストの病気は治せた様だな・・・
っていうか読者の方々は『ローゼンメイデン』知ってんのか？」

ピット

「作者が好きなアニメだからね・・・知ってる人は少ないんじゃない?」

えりか

「早くクリアしてくれないかな・・・!!」

アルル

「あっ! 倉庫だ!」

祈里

「やった! 今すぐあげよう!」

アルル

「勿論!」

祈里は倉庫の鍵を取り出し、シャッターに着いている鍵穴に鍵を差し込む。

祈里

「・・・よし、開いた!」

アルル

「おお!」

2人は倉庫の中へと入る。

アルル

「これだね、賞金単価減額阻止装置・・・!!」

祈里

「早く降ろそう・・・!!」

アルル

「そうだね・・・!!」

2人はレバーを同時に降ろす。

> i 3 5 8 2 8 — 4 2 6 0 <

アルル

「やったー!! これでミッションクリアだね!」

祈里

「活躍って良いよね・・・!」

2人は喜びあう・・・。

プルルルル♪

ゆり

「何々・・・『アルル・ナジャ、山吹祈里の活躍によってミッションクリア』

おお、あの2人凄い・・・!!」

トウーン

「あの2人は全部のミッションに参加してんもんな・・・!!」

ヴィータ

「これで賞金単価はそのままになったという事か・・・」

その頃、ローゼンガーデン城では・・・。

ジュンの命令によって真紅、蒼星石、金糸雀はローゼンガーデン城に帰っていた・・・。
勿論自分も。

王子の部屋にて・・・。

王子（役：桜田ジュン）

「帰って来ているのはこの3人か・・・『水銀燈』
すいぎんとう
『翠星石』
すいせいせき
『雛苺』
ひないちじ
『雪華綺晶』
きらきしやう
『薔薇水晶』
ばらすいしやうがまだだな・・・」

王女（役：真紅）

「まさか行方不明になってるとか・・・？あの5人が帰ってくる気配も無いし・・・」

兵士1（役…蒼星石）

「ここで迷っても仕方ありません。あの5人を捜しましょう。
まずは『水銀燈』を捜しましょう」

王子（役…桜田ジュン）

「そうだな・・・よし、単体で行動して捜すぞ」

この4人はまずは水銀燈を捜す事を決意した・・・。

その頃、黒魔術師は・・・。

黒魔術師（役…水銀燈）

「・・・」

クリスタルガーデンの森の中を彷徨っていた・・・。

水銀燈は自分の周りに魔方陣を作り出す・・・。

黒魔術師（役…水銀燈）

「・・・何か闇の気配を感じる・・・」

ウォーターガーデンの森の中にて・・・。

盗賊A

「宝石の館はどこだ・・・？」

盗賊B

「早い所見つけちまおう、そして宝石を頂いちまおうぜ！」

盗賊C

「たり前だぜ・・・!!」

盗賊の集団が、森の中を彷徨っていた・・・。

宝石の館内にて・・・。

ハンタ155体

「・・・」

中に、ハンタ155体が閉じ込められていた・・・。

船着き場にて、新エリアへと渡れる船に乗れる様になった・・・。

船長

「乗って乗って!盗賊がせめてきたぞ!」

住民全員

「うわあゝ!!」

住民は盗賊がせめてくる事を知り、小船に乗ろうとする・・・。

トゥーン

「!? 何だこの大勢の住民は・・・!! おうわ!？」

トゥーンは住民が船に乗りとうとする所を目撃する・・・。

ブルルルル♪

トゥーン

「こんな時に何だよ・・・!？」 『街に盗賊が出現した』
盗賊・・・!？」

ドンキー

「『残り20分までに男女ペアを組んで船着き場にある船に乗らないと』」

レッド

「『55体のハンターがエリアに解放たれる』
ちよっと待てよ・・・!？」 乗ってねえ奴が
55体のハンターの餌食になるって事か!？」

アルル

「多分、これ新エリア行きの船だね・・・!？」

シャリオ

「ちよっと待って下さい・・・!! 男女ペアを作れっても・・・
男性逃走者は3人しかいないんですよ!？」

MISSION? 新エリアに移動せよ!

街に盗賊が出現した。

残り20分までに男女ペアを組んで、

クリスタルガーデンにある船着き場にある船に乗らないと、
55体のハンターがエリアに解き放たれる!

男性逃走者 合計3人

レッド トウーン ドンキー

女性逃走者 合計7人

くるみ ゆり 祈里 シャリオ アルル シグナム ヴィータ

残る逃走者は、

くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、レッド、アルル、トウーン、ドン
キー、

シグナム、ヴィータの10人。

果たして、全員、男女ペアを組んで船に乗る事が出来るのか!?

ミッション3終了!だが・・・。(後書き)

残る逃走者は、

くるみ、ゆり、祈里、シャリオ、レッド、アルル、トゥーン、ドンキー、

シグナム、ヴィータの10人。

果たして、全員、男女ペアを組んで船に乗る事が出来るのか!?

新エリアに移動せよ！（前書き）

盗賊が攻めて来た・・・。

新エリアに移動せよ！

レッド

「女性とペア組めつてもなく・・・男性逃走者は少ねえし・・・」

レッド、未だに組む女性がない・・・。

ゆり

「ちよつとねえ・・・厳しいわ・・・!!」

ゆり、一刻も早く男性と組みたい様だ・・・。

牢獄DEトーク

シエゾ

「盗賊が攻めて来たか・・・しかも男女ペアで組めと？」

ピット

「あつ、ちよつと待って？本家では住民とも組めるんだったよね？
多分このミッションも同じかと・・・」

響

「その可能性は絶対にあるわね・・・!!」

ゆり

「ちょっと待って．．．!!ここ誰もいないの．．．!?!」

ゆりはずっと森の中にいた為、組める人がいない．．．。

更に、ゆりの近くに、ハンター．．．。

>i36013—4260<

ゆり

「こうなったら森の中から出よつと．．．」

しかし、ゆりはまだ気づいていない．．．。

ハンター

「!」

見つかった．．．。

ゆりは、ハンターに気づかず確保．．．。

ゆり

「．．．えっ!?!」 ポンッ

>i36014—4260<

ゆり

「嘘．．．!?!?ハンターに気づかず確保．．．!?!?うわあ、恥ずかしい．．．!?!」

プリキュアメンバーが、また一人確保．．．。

プルルル♪

祈理

「何なの・・・！？『クリスタルガーデンの森の中にて月影ゆり確保』

うわあ、もう9人！？」

ドンキー

「ゆりも確保されたか・・・！！組む女性が減った・・・！！」

ヴィータ

「コイツ・・・気づかず確保なんて・・・バカな奴だぜ・・・！！」

くるみ

「もうちょっと頑張ってよ・・・！！」

アルル

「もう9人か・・・後35分くらいか・・・早く乗らないと・・・！！」

アルルは組む人物を探す・・・。

アルル

「あれっ？レッド？何してんの？」

レッド

「アルル？」

アルル、レッドに会う・・・。

アルル

「会ったんだからさ、今組まない？ しかも一人だし・・・」

レッド

「俺もそうしたい所だぜ・・・！」

アルル

「有難う！」

アルル・ナジャ レッド 男女ペア成功

レッド

「急ごうぜ・・・！！」

アルル

「勿論！」

2人は船着場へと向かった。

ドンキー

「冗談だろ・・・！？住民ほいねえじゃねえかよ・・・！？」

ドンキーは街の中で迷う・・・。

祈里

「早く誰かと組んで乗らないと・・・！！」

祈里は男性逃走者を探す・・・。

トゥーン

「・・・あれ？蒼星石じゃん？こんな所で何うろついてるんだ？」

兵士1（役：蒼星石）

「あっ、貴方は・・・トゥーンさん？」

トゥーン、蒼星石に再び会う・・・。

兵士1（役：蒼星石）

「水銀燈を探してるんですが、ここにはいないみたいですね・・・」

トゥーン

「水銀燈・・・？多分船に乗ってるんじゃないか？よく知らないけど」

兵士1（役：蒼星石）

「なら、一緒に探してください・・・！お願いします！」

トゥーン

「いないんだったら船に乗ってる可能性が高いけど・・・よし、

一緒に合流しよう!」

兵士1（役：蒼星石）

「ありがとうございます・・・!!」

トゥーンリンク 蒼星石 男女ペア成功

兵士1（役：蒼星石）

「船着場に多分いると思います・・・!!」

2人は船着場へと向かった。

トゥーン

「あつ、そうだ!逃走者同士じゃなくても組めるメールを送ったかないと!」

プルルル♪

ドンキー

「何だよ、こんな時に・・・!?トゥーンからのメール?」

祈里

「『皆さん、実は逃走者同士じゃなくても住民とも組める事が判明しました!』」

そうだったの！？トウーンありがとう！」

レッド

「なるほどな・・・サンキュー、トウーン！」

アルル

「レッド、もうすぐ着くよ・・・！！」

レッド

「わかってらあ・・・！！」

しかし、2人の近くに、ハンター・・・。

>i36015—4260<

ハンター

「！」

見つかった・・・。

アルル

「・・・あれ！？あれハンターじゃん！？逃げるよ！！」

レッド

「マジでか・・・！？」

2人は別々に分かれて逃げる。

ハンターの標的は・・・。

アルル

「こっちなろー!? 嫌ー!」

アルルだ・・・。

アルルはまだ逃げている。

しかしハンターとの距離がどんどん縮んで行き、最早、逃走不可能・

アルル

「びゃあー!!」 ポンッ

> i 3 6 0 1 6 — 4 2 6 0 <

アルル

「もう・・・悔しい所じゃないよ・・・!! 何で船着場に着いたのに確保されなきゃなんないの・・・!? 本当にもう嫌だ・・・!!」

レッド

「まさか、あのまま確保されたのか!? 悪かった・・・!!」

プルルルル♪

ドンキー

「何なんだよ・・・!? 『船着場近くにてアルル・ナジャ確保』
うわっ!! めっちゃ惜しいじゃん!？」

シャリオ

「でも、最近確保情報多すぎじゃないの・・・!?」

レッド

「ああっ、やっぱり・・・!!」

ヴィータ

「こりゃ当然の結果だな・・・ミッションに参加するからこうなる
んだよ・・・!!」

くるみ

「残りは8人・・・殆どが動いて捕まった奴等よね・・・
あたしとヴィータはバカじゃないからすぐ捕まらないけど」

牢獄DEトーク

ウォッチ

「ユリサン？」

ゆり

「うわあ、恥ずかしいよ・・・!!」

ゆりは牢屋に入ってくる・・・。

ゆり

「アルルも確保されてもう8人ね・・・」

シェゾ

「残る逃走者はくるみ、祈里、シャリオ、レッド、トゥーン、ドンキー、シグナム、ヴィータの8人だ・・・!!」

ピット

「レッド、まだ生き残ってたんだ・・・!」

トゥーン

「よし、やっと着いた・・・!!」

兵士1（役：蒼星石）

「急ぎましょう・・・!!」

トゥーン達は船着場に着き、船に乗る。

トゥーン

「やった・・・!!」

トゥーンリンク ミッションクリア

トゥーン

「クリアしてないのは誰だ・・・?」

祈里

「あの、ちょっとすみません！ペア作りませんか？」

住民A

「ペア・・・？何の事だかよく分からないが、作ってやるよ」

祈里

「ありがとうございます・・・！！！」

祈里、近くの住民とペアを組めた・・・。

山吹祈里 住民A 男女ペア成功

祈里

「船着場に向かいましょう・・・！！！」

住民A

「そうだな・・・！！！」

2人は船着場へと向かった。

現在クリアしていない者は、

くるみ、祈里、シャリオ、レッド、ドンキー、シグナム、ヴィータの7人。

残る逃走者は、

くるみ、祈里、シャリオ、レッド、トウーン、ドンキー、シグナム、ヴィータの8人・・・。

果たして、全員船に乗る事が出来るのか！？

新エリアに移動せよ！（後書き）

残る逃走者は、
くるみ、祈里、シャリオ、レッド、トウーン、ドンキー、シグナム、
ヴィータの
8人・・・。

果たして、全員船に乗る事が出来るのか！？

ミッション4終了！(前書き)

果たして、全員船に乗れるのか！？

ミッション4終了!

レッド

「誰かと分かれたし・・・もう最悪だ・・・!!」

尚、レッドはまだ船着場の近くにいます・・・。

その時、シャリオがレッドの傍に駆けつけたのだった・・・。

シャリオ

「レッドさん?ここで立ち止まっててどうしたんですか・・・?」

レッド

「あつ、シャリオ・・・!!丁度良かった、一緒に組んでくれ・・・!!」

シャリオ

「あつ、私も組む相手がなくて困ってたんですよ・・・わかりました!

一緒に組みましょう!」

レッド

「ありがとよ・・・!!」

レッド シャリオ・フィニーノ 男女ペア成功

レッド

「おし・・・！！急いで船に乗るぞ！」

2人は船着場に着いている船に乗る。

レッド、シャリオ・フィニーノ ミッションクリア

レッド

「俺って結構幸運かな？」

シャリオ

「え？そうだったんですか？」

祈里

「あれっ？意外と早く着きました・・・！！！」

祈里も、住民Aと一緒に到着・・・。

住民A

「海賊が攻めてきてるから、急いで乗ろう」

祈里

「勿論ですよ・・・！！！」

祈里は船着場に着いている船に乗る。

山吹祈里 ミッションクリア

祈里

「やりました・・・!!」

これまでまだ乗っていない者は、くるみ、ドンキー、シグナム、ヴィータの4人。

ドンキー

「うわあ、男性で取り残されてるのは俺だけか・・・
任天堂のゴリラ代表として恥ずかしい・・・!!」

唯一、船に乗っていない男性逃走者、ドンキーコング。

果たして、彼も男女ペアを組んで船に乗れるのか。

シグナム

「おい、そこのお前・・・！」

シグナム、桜田ジュンと再会する・・・。

王子（役：桜田ジュン）

「シグナムか・・・お前も水銀燈探しを手伝ってくれ」

シグナム

「・・・水銀燈とやらは、ここにはいなかったぞ？
多分船に乗ってるはずだが・・・」

王子（役：桜田ジュン）

「そうか・・・お前も水銀燈が船に乗っているか確かめてくれ・・・
！」

シグナム

「勿論だ・・・！！」

シグナム 桜田ジュン 男女ペア成功

シグナム

「さあ、早く船着場に急ぐぞ・・・！！！」

2人は船着場へと向かった。

ヴィータ

「ああ、誰も来ねえし……！！早く誰でも良いから来いよ……！！」

ヴォルケンリッターのヴィータは全く動く気が無い様だ……。

くるみ

「こっちも一大事なのよ……！！誰でも良いから来てよ……！！」

くるみも、ヴィータと同じ事を言っている……。

ドンキー

「マジかよ……！？俺、迷っちゃったのかよ……！？」

ドンキーは船着場の方から全然違う方向に行っている……。

住民B

「うわあ……！！早く乗り込め……！！」

その時、ヴィータが住民Bを発見した！

ヴィータ

「おい、そこのお前！あたしと一緒に組め！」

住民B

「……えっ？こっちはこっちで……」

ヴィータ

「いいから黙ってあたしと組みやがれ！」

住民B

「えっ、ちよっ、待っ!!」

ヴィータは住民Bの腕を引っ張る。

ヴィータ 住民B 男女ペア成功

住民B

「多分、すぐ近くだと思うぞ・・・!!」

ヴィータ

「そうか・・・助かったぜ」

2人は船着場へと急いだ。

ドンキー

「ああ、マジでどこなんだよここは・・・!!?
俺、ここの街よく知らねえんだよ・・・!!」

ドンキーは組む相手を探している・・・。

くるみ

「ちょっと、そのアンタ！」

住民C

「えっ？何ですか？」

くるみ

「あたしと組みなさい！」

住民C

「ええ〜！？突如そういう事言われても・・・！！！」

くるみ

「いいからあたしと組んで！」

住民C

「おいちょっと！」

くるみは住民Cの腕を引っ張る。

美々野くるみ 住民C 男女ペア成功

くるみ

「さあ、急ぐわよ!!」

住民C

「分かったよ・・・!!」

2人は船着場へと急いだ。

シグナム

「ここが船着場か・・・さっさと乗ろう!」

王子（役：桜田ジュン）

「当たり前だ・・・!!」

2人は船着場に着いている船に乗る。

シグナム ミッションクリア

シグナム

「あれ、ここにもいないぞ・・・!!」

王子（役：桜田ジュン）

「これは変だぞ・・・!!」

2人は疑問を持つ。

ヴィータ

「よし、着いたぞ!!」

ヴィータと住民Bは船着場に着いている船に乗る。

ヴィータ ミッションクリア

ヴィータ

「おっ、リーダーもいるのか・・・!!」

くるみ

「やっと着いたわ・・・!!」

住民C

「急いで乗ろう・・・!!」

くるみ達も、到着・・・。

くるみ達は船着場に着いている船に乗る。

美々野くるみ ミッションクリア

くるみ

「もうこりこりよ．．．！！」

くるみは席に座り、だらんとなる。

そして、唯一取り残された逃走者は．．．。

ドンキー

「冗談だろ．．．！？俺一人になっちゃったのかよ．．．！？」

ドンキーコングだ．．．。

ドンキーは森の中を一人で彷徨う．．．。

そして．．．。

>i36034—4260<

船着場近くにて・・・。

ガコン!!

逃走者達が乗っている船が、動き出した・・・。

レッド

「ていうか、ドンキーの奴乗ってねえじゃねえのか!?!」

ヴィータ

「あいつだけ遅れやがったのか・・・!!」

祈里

「ドンキーさんが・・・!?!」

船はそのまま新エリアへと出港した・・・。

ドンキー

「!?!まさか・・・!!おい、ちよつと待てよ!?!」

ドンキーはやつと船着場に到着する。

祈里

「ドンキーさん!」

トゥーン

「やっぱり・・・!! 悪いな、気づかなくて・・・!!」

レッド

「さようなら・・・」

ドンキー

「ていうかほぼ俺を全員死人扱いしてんじゃん!?
ってそれより、乗せてくれ!!」

ドンキーは船を追いかける。が、そのまま船が出港したのだった・
・。

ドンキー

「嘘だろ・・・!? まさか・・・!!」

盗賊A

「へっへっへ!! やつと宝石の館に到着したぜ!!」

盗賊B

「さっさと開けちまおうぜ!!」

盗賊C

「わかってらあ!!」

盗賊達は宝石の館の鍵を開ける。

プシュー!!!!!!

ハンター55体放出・・・。

ドンキー

「・・・!!俺が取り残されたのか・・・!?!」

旧エリアに取り残された、ドンキーコング・・・。

そこに、ハンター55体がドンキーの左右に迫る・・・。

ハンター55体

「!」

見つかった・・・。

ドンキー

「・・・!?!?ヤベえよ!!!」

挟み撃ちだ・・・。最早、逃走不可能・・・。

>i36035—4260<

ドンキー

「ギャア〜!!」 ポンッ

>i36036—4260<

ドンキー

「この俺があゝ．．．！！！」

残念なゴリラだ．．．。

船内にて．．．。

レッド

「ドンキーコング確保か．．．残るは7人．．．」

トゥーン

「船に乗ってる男性逃走者は僕とレッドだけかよ．．．」

くるみ

「ドンキー情けないわね．．．」

ヴィータ

「もうちょっと早く来れば乗れてたのによ．．．！！！」

レッド

「お前ら．．．」

逃走者達は、新エリアへと向かった．．．。

残る逃走者は、

くるみ、祈里、シャリオ、レッド、トゥーン、シグナム、ヴィータ

の7人・・・。

逃走者達は、船に乗って新エリアへと向かった・・・。

ミッション4終了! (後書き)

残る逃走者は、
くるみ、祈里、シャリオ、レッド、トウーン、シグナム、ヴィータ
の7人・・・。

逃走者達は、船に乗って新エリアへと向かった・・・。

ミッション5発動！(前書き)

新エリアでの逃走劇の幕が開ける・・・！！

ミッション5発動！

ミッション5発動！

船が新エリアの船着場に到着した。

逃走者達は船から出て、新エリアへと散らばった。

祈里

「新エリアでも気を抜いては駄目・・・！！」

レッド

「俺の意地を皆に見せてやるぜ！」

トウーン

「緊張するぜ・・・！！」

ヴィータ

「ヴォルケンリッターの意地をあいづらに見せてやる・・・！！」

シグナム

「ヴォルケンリッターの将として、負ける訳には行かない・・・！！」

シャリオ

「私も、頑張ります・・・!!」

くるみ

「あたしだって・・・!!」

ゲーム開始まで・・・。

> i 3 4 8 6 2
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 3
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 4
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 5
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 6
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 7
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 8
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 6 9
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 7 0
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 7 1
— 4 2 6 0 <

> i 3 4 8 7 2
— 4 2 6 0 <

プシュー!!!!!!!!!!

4体のハンター、放出・・・。

新エリアでの逃走劇は、『もう一つのローゼンガーデン』。

各エリアは

『ウォーターガーデン』、『ゴールドガーデン』、『スターガーデン』、

『ブルーガーデン』、『スカーレットガーデン』、『ストロベリーガーデン』、

『スノーガーデン』、『クリスタルガーデン』の8つのエリア。

果たして、逃走者達はこのエリアを活かして逃げ切れる事が出来るのか!?

シャリオ

「自首なんて考えてません・・・!恥をかきますから」

逃走成功狙いの、シャリオ・フィニーノ・・・。

レッド

「今回俺長く生き残れてるよな・・・どうせなら逃走成功しちまおう・・・!!」

こちら、逃走成功狙いの、レッド・・・。

ヴィータ

「もう残り15分か・・・まあ賞金はあたしが貰って行くけどな・・・！！！」

こちら、全部のミッションを人任せにしてきた、ヴィータ・・・。

彼女も、逃走成功を狙う様だ・・・。

その頃、王子達は・・・。

王子（役：桜田ジュン）

「シグナムの奴はどこに行ったんだ・・・？」

バイオリスト（役：金糸雀）

「あっ、それよりもあれを見て下さい！」

王子（役：桜田ジュン）

「何だ・・・？」

ジュンは金糸雀が指差している所を見る。

王子（役：桜田ジュン）

「お前・・・水銀燈か!？」

黒魔術師（役：水銀燈）

「・・・(コクッ)」

水銀燈は頷く。

王子(役…桜田ジュン)

「よかった・・・心配かけやがって・・・」

黒魔術師(役…水銀燈)

「そんなに喜んでくれるとは・・・まあいいわ
後、これを」

王子(役…桜田ジュン)

「?何だこれは?」

水銀燈は冷凍銃を王子達に差し出す。

黒魔術師(役…水銀燈)

「これを敵軍に氷の霧を発射すれば、相手を凍らせる事が出来るわ」

王子(役…桜田ジュン)

「なるほど・・・よし、皆にも加勢して貰おう!」

プルルルル♪

祈里

「何ですか?こんな時に・・・『ミッション5』!?!?」

レッド

「『王子達がウォーターガーデンにて冷凍銃を売っている』
冷凍銃だ!」

ヴィータ

「『冷凍銃を在庫がある限りゲーム終了まで何回でも持ち出せる』
・
・
・」

トウーン

「『一度に1人1丁のみ。1丁でハンター1体を凍結（永久停止）
できる』」

永久停止!?! これは凄いな!」

MISSION? ハンターを冷凍せよ!

王子達がウォーターガーデンにて冷凍銃を売っている。

冷凍銃を在庫がある限りゲーム終了まで何回でも持ち出せる。
一度に1人1丁のみ。1丁でハンター1体を凍結（永久停止）でき
る。

レッド

「活躍の時が来た・・・!!」

シグナム

「これは手に入れなければ・・・!!」

ヴィータ

「ミッション！？行く訳ねえだろ・・・！！」

くるみ

「絶対誰かやって捕まるに決まってんのよ・・・！！だから行かない」

牢獄DEトーク

アルル

「冷凍銃か・・・ボクも活躍したかったな」

ドンキー

「でもな、捕まった俺等には得る権利が無いんだからな・・・」

えりか

「でも、皆の方があたしよりマシだよ・・・あたしなんか開始早々10秒くらいしか経ってないんだよ・・・？」

ピット

「えりか、ネガティブになるのは良くないよ・・・」

シャリオ

「まだ誰も捕まってませんし・・・行きましようかな？」

シャリオも、動く様だ・・・。

祈里

「ハンターを減らす為に、動きます・・・!!」

祈里も、ハンター冷凍に加勢する・・・。

トゥーン

「やってやるか・・・!!」

トゥーンも、自分の意地を皆に見せつけてやりたい様だ・・・。

ただし、あの2人を除いては・・・。

ヴィータ

「動く奴は絶対に捕まるに決まってるだよ・・・!!」

くるみ

「冷凍銃ね・・・動いたら捕まるし」

トゥーン

「多分すぐ近くかな?」

トゥーンはウォーターガーデンに向かって走っている・・・。

しかし、彼の近くに、ハンター・・・。

>i36082—4260<

ハンター

「!」

見つかった……。

トゥーン

「よし、もうすぐだ、多分……ってハンター!?!」

トゥーンは一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つかった為、最早、逃走不可能……。

トゥーン

「ぎょわー!!」 ポンッ

> i 3 6 0 8 3 — 4 2 6 0 <

トゥーン

「何なんだよハンター……!! 行こうとした瞬間に何で捕まるんだよ……僕が!?!」

プルルルル♪

シグナム

「何だ、こんな時に……!! 『ウォーターガーデン付近にてトゥーンリンク確保』

ついにトゥーンまでもか……!!!」

レッド

「って、男の逃走者俺だけ!?!」

ヴィータ

「コイツ・・・多分冷凍銃探しに向かってやがったな・・・
どいつもこいつも欲張りやがって・・・!!」

くるみ

「結局はこうなるのよ・・・!!」

レッド

「あれ？お前ら、『ローゼンメイデン』の
桜田ジュンと真紅と蒼星石と金糸雀と水銀燈じゃねえか。冷凍銃
売ってんのか？」

レッド、ウォーターガーデンに到着・・・。

王女（役：真紅）

「勿論よ・・・あつ、レッドに冷凍銃を差し上げるわ」

レッド

「サンキュー・・・!!」

レッド 冷凍銃獲得

レッド

「おっしゃ・・・!! 冷凍銃手に入れたぜ・・・!!」

レッドは冷凍銃をしまい、ウォーターガーデンから出た。

牢獄DEトーク

トゥーン

「畜生・・・クソツタレ・・・!!」

トゥーンは牢獄に入る・・・。

ドンキー

「トゥーンも捕まったのか・・・

男性逃走者は結構減ってきてるよな・・・」

シェゾ

「もう残るは6人か・・・」

アルル

「こうなったら誰を応援する？ボクは祈里ちゃん」

シェゾ

「俺はシグナム」

ドンキー

「レッド」

トゥーン

「シャリオ」

話し合いが、続いていた・・・。

残る逃走者は、
くるみ、祈里、シャリオ、レッド、シグナム、ヴィータの6人・・・。

果たして、冷凍銃をゲット出来るのか!?

ミッション5発動！（後書き）

残る逃走者は、

くるみ、祈里、シャリオ、レッド、シグナム、ヴィータの6人・・・

。

果たして、冷凍銃をゲット出来るのか！？

ハンターを冷凍せよ！（前書き）

冷凍銃を手に入れた、レッド・・・。

ハンターを冷凍せよ！

現在、レッドは店の近くにいる。

シグナム

「レッド？お前、それは・・・」

レッド

「シグナム？近くの店で手に入れた。お前も貰ったら？」

シグナム

「今から貰う所だ・・・」

レッド

「そうだったんだな・・・」

シグナムは店内に入る。

王子（役：桜田ジュン）

「何だ？冷凍銃が欲しいのか？」

シグナム

「勿論だ・・・1つくれ・・・」

王女（役：真紅）

「どうぞ。あと4つあるわよ」

シグナム

「いや、これ一つで十分だ・・・！」

シグナム 冷凍銃ゲット

シグナム

「よし、これでハンターを凍らせる．．．!!」

シグナムは店内から出た。

レッド

「ん？シグナム、お前も貰ったんだ」

シグナム

「ハンターを減らす為にな．．．よし、行くぞ！」

レッド

「おうよ！」

2人はハンター冷凍へと向かった。

ヴィータ

「くるみ．．．？お前何でここにいるんだよ．．．？」

くるみ

「そっちこそ・・・！」

ヴィータ、くるみと合流・・・。

ヴィータ

「お前も、ミッション参加か・・・？」

くるみ

「するわけないでしょ、動いたら絶対に捕まるんだから・・・！！！」

ヴィータ

「そりゃそうだよな・・・」

この二人は、気が合いそうだ・・・。

牢獄DEトーク

トゥーン

「ハンター冷凍か・・・僕も参加したかった」

ドンキー

「現在手に入れてるのはレッドとシグナムだな・・・」

ドンキーはボードを見る。

シャマル

「リーダーとレッドさん、頑張ってください・・・！！！」

アルル

「あと祈里ちゃんとシャリオちゃん！」

ヴィータ

「・・・！！ハンター近くに来てやがる・・・！！」

2人はすぐに近くのベンチに身を隠す。

>i36084—4260<

くるみ

「冗談じゃないわよ、こっち来てる・・・！！」

ヴィータ

「まさか・・・！！」

ハンター

「！」

見つかった・・・。

ヴィータ

「うわあつ、マジやべえ！！」

くるみ

「逃げるわよ！！」

2人は一目散に逃げる。

ハンターの標的は……。

くるみ

「いやー!!こっち来ないでー!!」

美々野くるみだ……。

くるみはそのまま続けて逃げる。
しかし彼女がハンターの足に適う訳が無い。最早、逃走不可能……。

くるみ

「ああっ!!」 ポンッ

>i36085—4260<

くるみ

「ああ……惜しい……!!ヴィータはどうなったの……!」

自業自得だ……。

ヴィータ

「ぎゃあああああー!来るなあー!!」

ヴィータも尚逃げ続ける。

しかし彼女がハンターの足に適う訳が無い。最早、逃走不可能……。

ヴィータ

「ぎゃうー!!」 ポンッ

> i 3 6 0 8 6 — 4 2 6 0 <

ヴィータ

「このあたしが……!!」

まさに、自業自得だ……。

ブルルルル♪

レッド

「何々……? 『スターガーデンの広場にて美々野くるみ、ヴィータ確保』」

やっぱり人任せの奴等が捕まったか……!!」

祈里

「今頃牢獄ではどうなってるのかしら……?」

シャリオ

「今まで皆さんを馬鹿にして来た罪は重いですよ……!!」

シグナム

「『自業自得』って所だな・・・」

レッド

「ハンターめ、どこからでも来い・・・!!」

シグナム

「あたしらが冷凍させてやるよ・・・!!」

2人は冷凍銃を構える。

レッド

「!運のいい事に2体来た!!」

シグナム

「よし・・・!!」

ハンター2体

「!」

見つかった・・・。

レッド

「挟み撃ちか・・・だけどそんな事をしても無駄だぜ!!」

シグナム

「あたしらの冷凍銃を受けてみる!!」

2人は背中合わせになる。

>i36087—4260<

2人

「凍れ!!」

2人は冷凍銃を構え、氷の霧を発射する!!

プシュー!!!!!!

ハンター2体

「・・・」

ハンター2体冷凍 合計2体

レッド

「おっしゃ・・・!! 大成功だぜ・・・!!」

シグナム

「残るは合計2体・・・あと2体冷凍させたらハンターは全滅だ・・・!!」

レッド

「だけど、この銃使い捨て何だよ・・・」

冷凍銃の使用回数は、1回のみ・・・。

プルルルル♪

シャリオ

「何でしょう・・・？『レッド、シグナムの活躍によってハンター2体凍結』」

2体も凍結！？凄いですよ！！」

祈里

「レッド君とシグナムさん、凄い・・・！！2体も減らしたなんて！！」

これで、大幅に逃げやすくなった・・・。

牢獄DEトーク

シェゾ

「あの2人カッコよすぎだろ・・・」

トウーン

「レッドとシグナムやるな～！！あつ、あの2人が来た」

ウォッチ

「何ッ！？」

ヴィータとくるみは牢獄に入る。

ドンキー

「お前、俺等の悪口を陰で言ってただろ・・・!?!」

ヴィータ

「はあ!?!何の話だ!?!」

ウォッチ

「貴方達最低デスネ・・・悪口ハイケマセンヨ・・・!?!」

くるみ

「あれは、別に・・・!?!」

シェゾ

「言い訳無用だ・・・!?!ちょっとこっちに来い」

牢獄は2人に説教をしてる様だ・・・。

レッド

「ハンター2体か・・・俺も活躍出来たかな？」

シグナム

「当たり前だろう・・・!」

祈里

「良かった・・・!?!」

シャリオ

「これで大幅に逃げやすくなりました・・・!!」

残る逃走者は、

祈里、シャリオ、レッド、シグナムの4人・・・。

しかし、この後とんでもない事が起こる・・・!!

ハンターを冷凍せよ！（後書き）

残る逃走者は、

祈里、シャリオ、レッド、シグナムの4人・・・。

しかし、この後とんでもない事が起こる・・・！！

ミッション6発動！(前書き)

残る4人の逃走者達に、更なる脅威が訪れる・・・！！

ミッション6発動!

>i36100—4260<

レッド

「残るは5分……!!絶対_に逃げ切れる!!」

シグナム

「気を引き締めていこう……!!」

祈里

「私達もね……!!」

シャリオ

「頑張ります……!!」

残る逃走者は、

祈里、シャリオ、レッド、シグナムの4人のみ……。

その頃、翠星石は……。

召使い（役…翠星石）

「ここが『眠る砂時計の館』ですう……」

翠星石は館の扉を開ける。

召使い（役…翠星石）

「!? 貴方は・・・むぐっ!!」

何と、翠星石は謎の人物によって麻酔をかけられたのだ!

召使い（役…翠星石）

「・・・ぐう・・・」

翠星石はその場に倒れ、寝た・・・。

謎の人物

「・・・」

謎の人物は、砂時計を逆さまに変えた・・・!!

> i 3 6 0 9 2 — 4 2 6 0 <

> i 3 6 0 9 3 — 4 2 6 0 <

> i 3 6 0 9 4 — 4 2 6 0 <

> i 3 6 0 9 5 — 4 2 6 0 <

> i 3 6 0 9 6 — 4 2 6 0 <

レッド

「・・・！？タイマーが狂ってやがる・・・！！」

シグナム

「これは一体・・・！？」

祈里

「どうしよう・・・！？タイマーが逆向きに進んでる・・・！！」

シャリオ

「何なんですか、これは・・・！？」

まさかのタイマーが反転した・・・。

逃走者達はそれに動揺する・・・。

その時。

プルルルル♪

レッド

「な、何だ・・・！？『ミッション6』！？」

『眠る砂時計の館でゲーム時間を司る砂時計が反転』
そののせいかよ・・・！？」

シグナム

「『元に戻すまでゲーム時間が逆転して残り時間増加・賞金減額状態が続く』」

な、何だと・・・!？」

祈里

「いつまでたってもこのゲームが終わらないって事!？」

シャリオ

「ど、どうしよう・・・!!」

MISSION? 逆転した時間を戻せ!

眠る砂時計の館でゲーム時間を司る砂時計が反転。

元に戻すまでゲーム時間が逆転して、
残り時間増加・賞金減額状態が続く。

レッド

「行こう・・・!!」

シグナム

「行くしかない・・・!! 何故ならゲームが終わらないからだ・・・!!」

祈里

「早く行かないと・・・!!」

シャリオ

「うわっ、時間がどんどん増えて行きます・・・!!」

これは何としても行かないと行けません・・・!!」

全員、ミッション参加の様だ・・・。

牢獄DEトーク

シェゾ

「時間が反転してる・・・!!」

トゥーン

「これはヤバイぞ・・・!!・・・でも、あの黒こげになってるのは何？」

トゥーンが指差した所は、ヴィータとくるみが黒こげになっていた・・・。

ピット

「どうやらぷよぷよとロックマンの人達にボコボコにされた様だね・・・」

響

「グロい・・・」

シャリオ

「これはすぐ向かわないと駄目ですよ・・・!!」

シャリオ、すぐに動き出す・・・。

しかし、彼女の近くに、ハンター・・・。

> i 3 6 0 9 7 — 4 2 6 0 <

ハンター

「!」

見つかった・・・。

シャリオ

「まずはどこから・・・ってハンター!?!」

シャリオは一目散に逃げる。

しかしあまりにも気づくのが遅かった為、最早、逃走不可能・・・。

シャリオ

「キャー!?!」 ポンッ

> i 3 6 0 9 8 — 4 2 6 0 <

シャリオ

「こんな筈じゃ・・・!?!」

プルルルル♪

レッド

「何だ・・・！？『シャリオ・フィニーノ確保』
ついにシャリオまでもが・・・！！！」

シグナム

「不味いぞ、もう3人か・・・！！」

祈里

「もう5分も過ぎてる・・・！！」

これに残る逃走者は、

祈里、レッド、シグナムの3人となった・・・！

レッド

「くそっ、何でこんな時にハンターがいるんだよ・・・！！
逃げやすくなったのは良いけどよ・・・！！」

レッドは一目散に身を隠す。

シグナム

「早くクリアしないと・・・！！」

シグナムもミッションに動く・・・。

祈里

「早く・・・早く・・・！！」

祈里は全速力で走る。

牢獄DEトーク

シェゾ

「もう6分かよ・・・!？」

ウォッチ

「時間ガドンドン過ギテ行ッテ来テマスネ・・・!!！」

シャリオ

「これはもしや・・・全滅の危機が？」

祈里

「いやゝ!こっちにもいるじゃん？」

祈里はすぐに身を隠す。が、遅かった・・・。

ハンター

「!」

見つかった・・・。

祈里

「うわあゝ!!ヤバイってゝ!!！」

祈里は一目散に逃げる。

しかし至近距離で見つけた為、最早、逃走不可能・・・。

祈里

「ぎゃあー!!」 ポンッ

> i 3 6 0 9 9 — 4 2 6 0 <

祈里

「負けちゃった・・・」

プリキュアメンバー、全滅・・・。

プルルルル♪

レッド

「何だよ、ここで・・・!!? ま、また確保情報!?!」

シグナム

「『山吹祈里確保』祈里まで・・・あんなに頑張ってた祈里が・・・!!!」

残る逃走者は、
レッド、シグナムの2人のみ・・・。

果たして、逆転した時間を元通りに戻せるのか!?!?

ミッション6発動！（後書き）

残る逃走者は、

レッド、シグナムの2人のみ・・・。

果たして、逆転した時間を元通りに戻せるのか！？

結果（前書き）

そして・・・。

結果

シグナム

「早く時間を戻してしまおう・・・!!」

シグナムは足を急がせる。

レッド

「急げ、急げ・・・!!」

レッドも、足を急ぐ・・・。

残るは、2人・・・。

果たして、時間を戻し、逃走成功出来るのか・・・？

牢獄DEトーク

シェゾ

「もう9分だぞ・・・!？」

アルル

「早く戻してよ・・・!!」

カービィ

「滅茶苦茶大変だよ・・・!!」

シャル

「リーダー、レッドさん、頑張れー!!」

レッド

「まだかよ・・・!? ていうかもう10分だぜ・・・!?」

レッド、全速力で走る・・・。

シグナム

「着いた・・・!!」

シグナム、例の館の前に到着・・・。

シグナム

「これをひっくり返せばいいのか・・・?」

シグナムは中の砂時計をひっくり返す。

> i 3 5 8 2 8 — 4 2 6 0 <

シグナム

「・・・なんだ、あっけなくクリアしたな・・・」

プルルル♪

レッド

「何だ・・・？『シグナムの活躍によりミッションクリア』
シグナム、すげえじゃん！やっぱり！」

その頃、謎の人物と王子達は・・・。

謎の人物

「・・・」

謎の人物はマッチ、麻酔薬を持ち走っている・・・。

その時、王子達に目をつけられた・・・！！

王子（役：桜田ジュン）

「！？お前、マッチと麻酔薬を！？捕まえろ！！」

王女（役：真紅）

「・・・」

王子達は自分達的能力を使い、謎の人物を捕らえる。

王子（役：桜田ジュン）

「お前の正体は・・・！？あやしいクルーク！？」

何と、犯人は街などを襲ったあやしいクルークだったのだ・・・。

あやしいクルーク

「・・・私はあやしいクルークでありあやしいクルークでは無い。
そう、私は、あやしいクルークの『クローン』だ」

何と犯人は自分から正体を明かす・・・。

王子（役：桜田ジュン）

「・・・こっちに来い！！」

あやしいクルーク（クローン）

「！！」

こうして、事件の幕が閉じたのだった・・・。

シグナム

「さて、戻るか・・・」

シグナムは館から出る。が・・・。

ハンター

「！」

見つかった・・・。

シグナム

「！？館から出た途端に・・・嘘だろ！？」

シグナムは一目散に逃げる。
しかしハンターとの距離があまりにも近すぎた為、最早、逃走不可能……。

シグナム

「ぐわあゝ!!」 ポンッ

> i 3 6 1 0 2 — 4 2 6 0 <

シグナム

「あたしが……!! 何故だ……!!」

ヴォルケンリッターの将、ついに力尽きた……。

プルルル♪

レッド

「何々……『眠る砂時計の館付近にてシグナム確保』
って、残るは俺だけかよ!？」

残る逃走者は、レッド、ただ一人……。

牢獄DEトーク

シェゾ

「残るはレッド一人……!! 頑張れ!!」

アルル

「応援してるから!!」

シグナム

「皆の分を乗せて頑張れ・・・!!」

ウォッチ

「絶対逃ゲ切ッテ下サイ!!」

レッド

「うわあ、プレッシャーかかるし・・・ってハンター!?!」

ハンター

「!」

見つかった・・・。

レッドは一目散に逃げる。

しかし彼がハンターの足に適う訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

レッド

「くるなあゝ!!」 ポンッ

> i 3 6 1 0 3 — 4 2 6 0 <

レッド

「嘘だ・・・!! 二回連続全滅・・・!?!」

またもや、逃走成功ならず・・・。

> i 3 6 1 0 4 — 4 2 6 0 <

牢獄DEトーク

レッド

「ああゝ、もうちょっとだったのによ・・・!!」

シグナム

「悔しい・・・!! また無いのか・・・! ?」

ウォッチ

「仕方無いデスヨ・・・」

トゥーン

「ああゝ、二回連続全滅かゝ・・・」

アルル

「ありえないでしょ、二回連続全滅って・・・」

シャル

「まあまあ・・・とりあえず作者さんからの差し入れ、皆で食べよう」

シャルは差し入れを皆に配る。

ヴィータ

「腹減ったぜ・・・パクッ! ムグムグ・・・ム
ワァァァ
」

くるみ

「こっちもムワァァァァァァァァァァァァ
」

何と、2人は激辛の差し入れを食べて炎を吐き、
気絶したのだった!

2人以外

「ざまぁ W W W
」

こうして、第3弾の逃走中が終わった・・・。

結果（後書き）

こうして、第3弾の逃走中が終わった・・・。

次回予告（前書き）

次回予告・・・。

次回予告

今回の逃走中は、『忍者の隠れ里』……。

忍者が住む、謎の里……。建物はほぼすべて木で出来ている。

更に、城には謎の人物が……。！？

22人の逃走者は、一体誰なのか……。！？

果たして、今回は3連続全滅か……。逃走成功か……。！！

結果はどちらなのか！？果たして、逃げ切る者はいるのか！？

それは、次回で判明する！果たして、どんなゲームになるのだろうか！？

今回は22人の逃走者がこの狭いエリアで逃げ回る！

果たして、誰が生き残るのか！？

次回予告（後書き）

第3弾完結です！

ここまで読んで下さって、ありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8541y/>

スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『ローゼンガーデン編』

2011年11月30日14時46分発行